

JAGT 日本ゲシュタルト療法学会

第8回大会

学術大会&ワークショップ大会

大会テーマ

「出会いから生まれるもの～ゲシュタルト療法と交流分析」

開催：2017年7月15日（土）～17日（月）

会場：江戸川大学（千葉県流山市）

大会長：室城 隆之（江戸川大学社会学部人間心理学科）

後援／日本交流分析学会・NPO 法人日本交流分析協会・(一社)日本産業カウンセラー協会
NPO 法人日本 TA 協会・TA 研究部会



第8回大会に寄せて

日本ゲシュタルト療法学会第8回大会
(学術大会&ワークショップ大会)
大会長 室城 隆之

現代の心理療法は、百花繚乱の状況です。しかし、どんな心理療法にも大きな魅力があるのと同時に、限界も存在します。心理療法の進歩のためには、その特徴を大切にしつつ、常に外から必要な情報を取り入れ、変化をしていくことが大切です。

ゲシュタルト療法と交流分析は、同時代に精神分析から分離して生まれた心理療法であり多くの共通点を持っています。しかし、一方で、両者には相違点もあり、それがお互いの特徴を示しています。ゲシュタルト療法が交流分析と出会ったとき、そこから何が生まれるのでしょうか？ ゲシュタルト療法は、その出会いから何を学べるのでしょうか？

本大会では、ゲシュタルト療法と交流分析と統合させた「再決断療法」の第一人者であるヴァン・ジョインズ博士を基調講演者にお迎えし、併せて「再決断療法」のワークショップも開催します。また、シンポジウム、ワークショップ等を通じて、ゲシュタルト療法と交流分析の両方を体験できるようにしています。我々自身がゲシュタルト療法、交流分析の双方と出会うことによって何が生まれるのかを体験しながら、ともにゲシュタルト療法の今後の発展性を検討していければと思います。

前回大会と同様、本大会も実りあるものとなりますよう、皆さま方のご参加をお願いいたします。

ヴァン・ジョインズ博士から JAGT 会員へのメッセージ

こんにちは！

私は2017年7月15日の日本ゲシュタルト療法学会第8回大会で皆さんと一緒にできることを、そして「ゲシュタルト療法と交流分析の出会い：新たな統合を創り出すためにお互いが提供し合えるもの」というタイトルで基調講演を行うことができることを楽しみにしています。私はまた、ゲシュタルト療法と交流分析を統合した再決断療法に関するワークショップを、午後に行う予定です。多くの皆さんと直接お会いし、アイデアを交換し合いたいと願っています。敬意をこめて



ヴァン・ジョインズ博士
国際交流分析協会教授会員

米国ノースカロライナ州チャペルヒル サウスイースト研究所(集団、家族療法) 所長

Greetings!

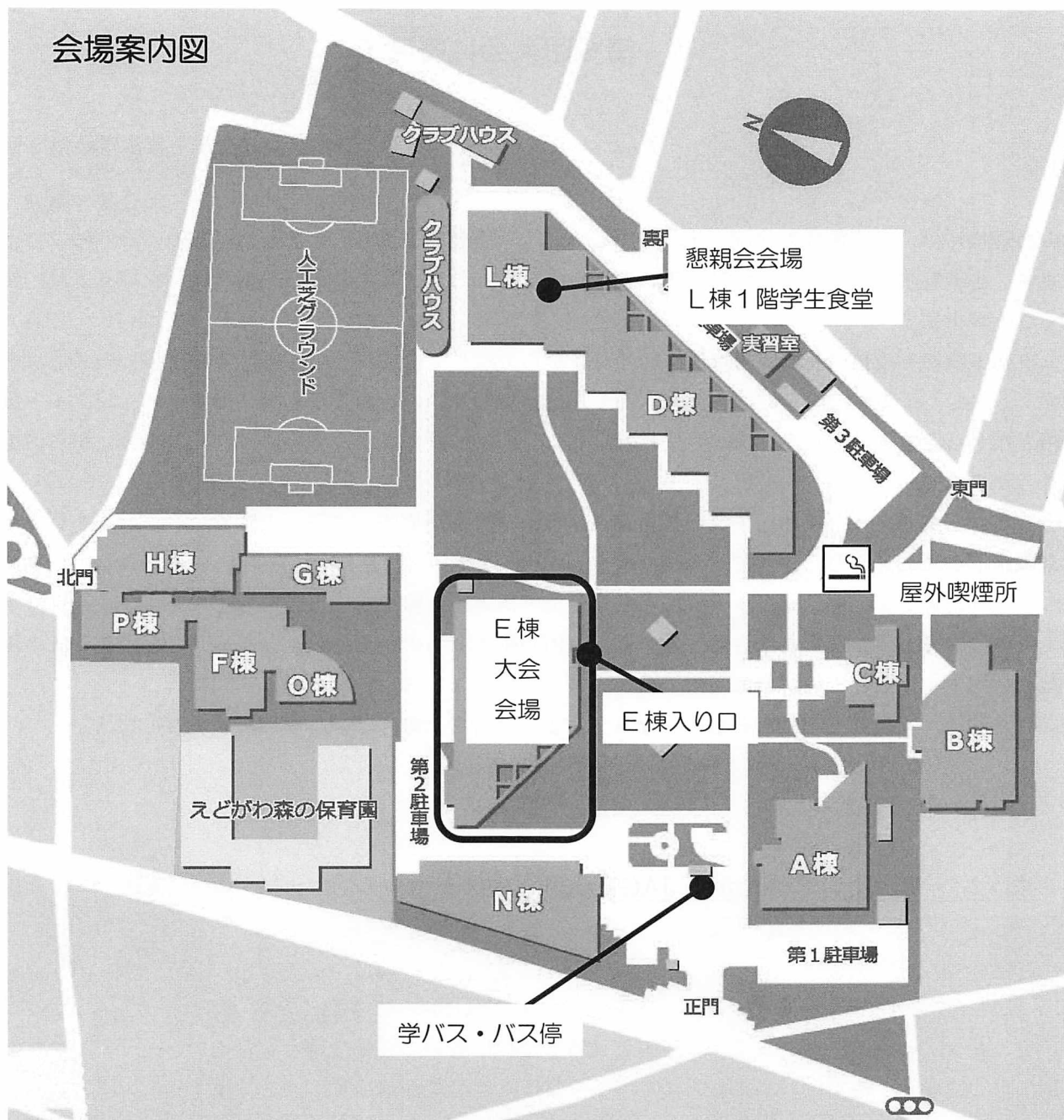
I am looking forward to being with you at your Conference on July 15, 2017 and delivering a Keynote address entitled "Gestalt Meets Transactional Analysis: What Each Can Offer the Other." I will also be presenting a workshop in the afternoon on Redecision Therapy which integrates Gestalt Therapy with Transactional Analysis. I hope to meet many of you in person and exchange ideas with you.

Warm regards,

Vann Joines, Ph.D., Teaching and Supervising Transactional Analyst

President of the Southeast Institute for Group and Family Therapy, Chapel Hill, NC

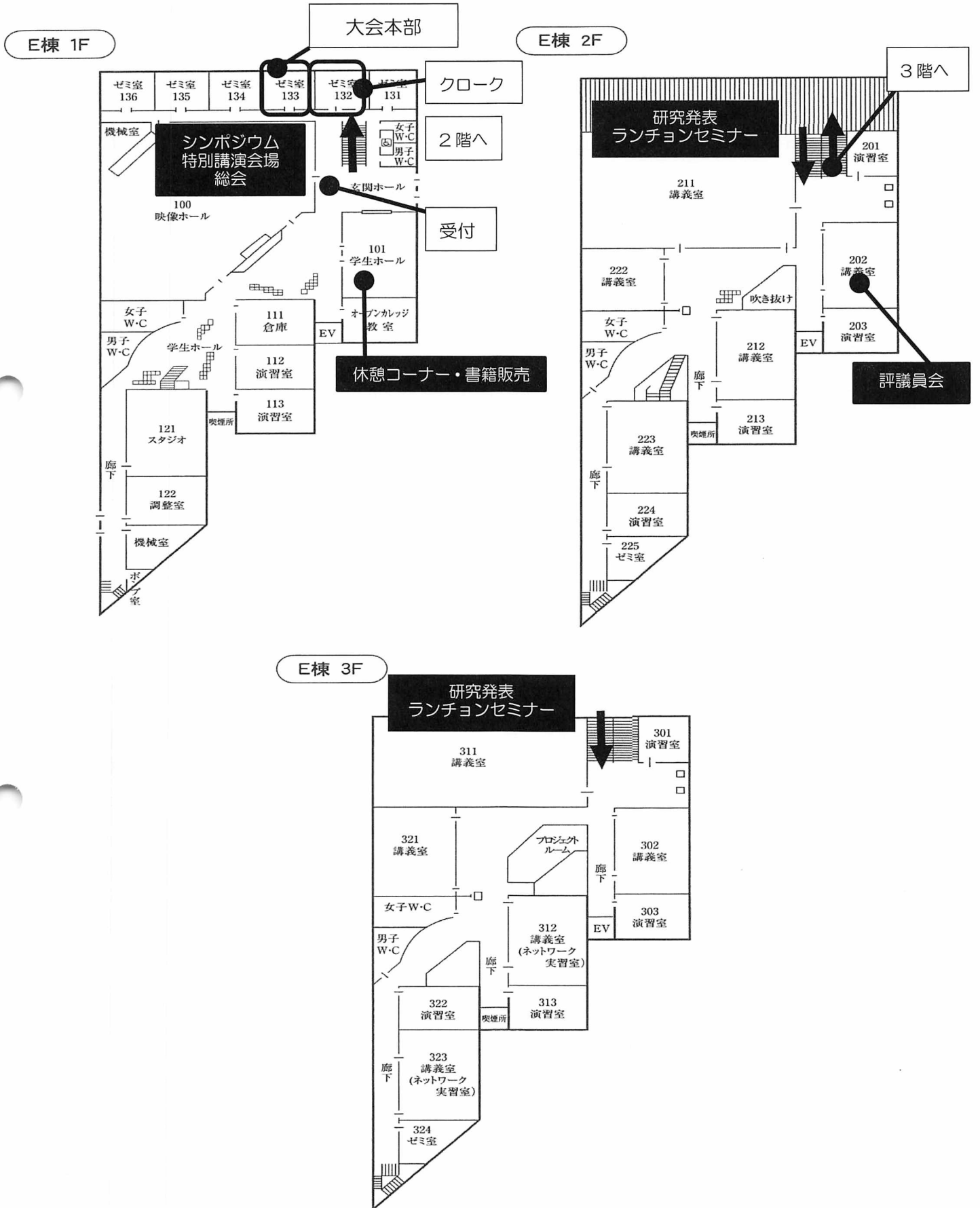
会場案内図



会場一覧

大会受付	E棟	1F	
講演・7/15 ワークショップ・シンポジウム会場・総会	E棟	1F	映像ホール (E100 教室)
研究発表会場	E棟	2F	E211 教室・3F E311 教室
7/15 ランチョンセミナー会場	E棟	2F	E211 教室・3F E311 教室
7/17 ワークショップ会場	E棟	2F	E202,203,211,213,222,223 3F E302,303,311,321
7/17 ランチョンセミナー会場	E棟	1F	映像ホール (E100 教室)
クローク	E棟	1F	E132 教室
休憩コーナー・書籍販売(2日目)	E棟	1F	学生ホール
憩親会	L棟	1F	学生食堂
評議員会	E棟	2F	E202 教室
第8回大会本部	E棟	1F	E133 教室 ※第1日の書籍販売は映像ホール (E100 教室)

大会会場 E棟案内図



大会日程

7月15日(土):大会第1日

		9:00 10:00 10:15	11:00	12:30	14:00	19:00
受付	開会式	大会長講演 「私とTA(交流分析), そしてゲシュタルト療法」 映像ホール (E100)	基調講演 「ゲシュタルト療法と交流 分析の出会い」 映像ホール (E100)	「TAMニ講座」 E棟 211 「ゲシュタルト療法 ミニ講座」 E棟 311 JAGT評議員会 E棟 202		ヴァン・ジョインズ博士 再決断療法ワークショップ 映像ホール (E100)

7月16日(日):大会第2日

		9:00 9:30	11:30 11:45	12:30	13:15
受付	研究発表①		JAGT総会 ※昼食持参 映像ホール (E100)	会員と理事の 茶話会 映像ホール (E100)	
	「大学生へのゲシュタルト 療法の適用」 E棟 211	「世代を超えた未完了の 完了に向けて」 E棟 211			
	「心理的背景に着目した 調剤過誤対策と効果」 E棟 311	「産業保健におけるゲシュ タルト活用の可能性につい て」 E棟 311			

		13:30	15:30 15:45	17:45 18:00	20:00
受付	研究発表②		シンポジウム 「ゲシュタルト療法とTA(交流分析) ～違いから生まれる可能性」 映像ホール(E100)	懇親会 (事前申込制) L棟 食堂	
	「ロンベルグ反射を応用した取 り組みで心身の繋がりを確か める」 E棟 211	「エンプティチャア上の自己内 対話に『我-汝』は可能か」 E棟 211			
	「ゲシュタルト療法を活用した チームビルディングにおけるパ ワーハラスメントの回避方法」 E棟 311	「ゲシュタルト療法による摂食 障害のあるクライアントの面接 過程」 E棟 311			

7月17日(月):大会第3日

		9:00 9:30	12:00	13:30	16:00 16:15	17:00
受付	大会ワークショップ① (詳細は別表参照)		「論文の書き方」 映像ホール (E100)	大会ワークショップ② (詳細は別表参照)		閉会式 映像ホール (E100)

大会第3日:大会ワークショップ一覧

大会ワークショップ① (9:30~12:00)		※会場は当日受付周辺に掲示します		
区分	ワークショップ	担当	定員	参加条件
1	人生脚本:「わたし」と「からだ」の物語	渋谷 祥代	12名	なし
2	プレイバックシアターとゲシュタルト	白坂 和美	なし	なし
3	実験:〇〇になる	都合により中止	倉木成伊知	なし
4	いのちの声を聴く	梅田福一郎	12名	なし
5	心とからだの深呼吸	三井 洋子	なし	学会員のみ
6	からだは私のミカタ ～心と体のつながりを取り戻すはじめの一步～	皆吉美和子	12名	なし
7	フォーカシング指向ゲシュタルト療法を体験しよう	有村 凜	なし	なし
8	フィールド <small>フィールド</small> <small>フィール</small> FieldをFeelど!?	芦原 義浩	15名	なし
9	自己発見, 気づきは人生をおもしろくする	野妻 裕美	12名	なし
10	★大会テーマワークショップ TA・ゲシュタルト(再決断療法)ワークショップ	室城 隆之	15名	なし
大会ワークショップ② (13:30~16:00)		※会場は当日受付周辺に掲示します		
区分	ワークショップ	担当	定員	参加条件
1	理論と体験 ～気づき・関わり・プロセス～	河村 葉子	なし	なし
2	絵を描いて自分に出会うワークショップ	渡辺トヨ子	15名	学会員のみ
3	スーパービジョン	江夏 亮	12名	なし
4	ゲシュタルト療法の理論と実践	守谷 京子	12名	なし
5	ライブ・スーパービジョン&セラピー ～ファシリテーターの課題を見出し, その場でワークする～	岡田 法悦	なし	なし
6	家族システムと身体	百武 正嗣	なし	なし
7	ゲシュタルトにTAを活用するワークショップ	藤原 勝	なし	なし
8	TA脚本の書き換えに Gestalt 療法を	平松みどり	なし	なし
9	重い精神病理を抱えるクライアントと関わるために 知っておきたいこと	中尾 文彦	12名	学会員のみ

【大会ワークショップ①②参加申込み・抽選手順】

初日より受付周辺に「大会ワークショップ参加申し込み用紙」を設置します。

参加したいワークショップに氏名(フルネーム)を記入してください。

◆ 申込み締切:7月16日(日)13:30

定員のあるワークショップに定員以上の申込みがあった場合は,大会事務局で抽選します。

抽選結果は,当選者氏名に○で表示し,同じ場所に掲示します。各自でご確認ください。

◆ 抽選結果発表:7月16日(日)15:00頃

残念ながら抽選にもれた方(氏名に○のない方)は,空きのあるワークショップの参加申し込み用紙に氏名(フルネーム)を記入してからご参加ください。抽選結果発表後は,定員のあるワークショップは定員を超えての申込みはできません。抽選後は定員まで先着順とさせていただきます。

10:15 映像ホール (E100)

大会長講演

「私とTA（交流分析）、そしてゲシュタルト療法」



室城 隆之 (江戸川大学社会学部人間心理学科)

今回の大会のテーマは、「出会いから生まれるもの～ゲシュタルト療法と交流分析」です。この2つの心理療法は、同じ時代に始まり、精神分析を土台にしながらも、人間性心理学や実存主義の影響を受け、独自のアプローチを展開してきました。そのため、この2つの心理療法には、多くの共通点があります。たとえば、精神分析の欲動と防衛のメカニズムの影響、人間性心理学のオーセンティック・セルフ、「今、ここで」の気づきの重視、実存的存在としてのOKnessなどです。

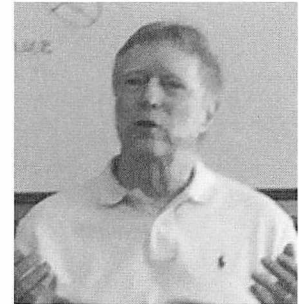
しかしながら一方で、再決断療法という重要な例外を除いて、両者はこれまで十分にはコンタクトしてこなかったように思います。それどころかお互いに、コンタクトを避けているようにさえ思えます。それはいったい、なぜなのでしょう？ 両者にはいったい、どんな違いがあるのでしょうか？

この講演では、この2つの心理療法の違いを、自我心理学と自己心理学という観点から考えてみたいと思います。そして、一見相容れないように見える両者が、真にコンタクトをすることによって何が生まれるのかについて、私自身の体験を交えながら、お話ししたいと思っています。

11:00 映像ホール (E100)

基調講演

「ゲシュタルト療法と交流分析の出会い：
新たな統合を創り出すためにお互いが提供し合える
もの」



ヴァン・ジョインズ Vann Joines, Ph.D.

(国際交流分析協会教授会員/米国ノースカロライナ州 集団・家族療法サウスイースト研究所)

ゲシュタルト療法と交流分析は共に、「今、ここ」に焦点を当てた現実療法の動向の一部です。それらはそれぞれ、フリッツ・パールズとエリック・バーンによって、伝統的なフロイト派の精神分析に対する反動として発展しました。パールズは伝統的なフロイト派の精神分析を知的すぎると感じましたし、バーンはそれをあまりに分かりにくい用語で表されていると感じたのでした。パールズは、クライアントが経験したことについて語るよりもむしろ今起きていることを体験するための強力な手法を発展させましたし、バーンはクライアントが自分の経験を理解するための非常に明確で有用な概念的枠組みを発展させました。そして、両者が一緒に美しい結婚をしたことで、両方の世界で最も良いものをお互いにもたらしました。

我々はそれぞれのアプローチのユニークな貢献や、それぞれがどのようにしてより大きな全体を創り出すためにお互いを強化し合うことができるかを見るでしょう。

Both Gestalt Therapy and Transactional Analysis are part of the reality therapy movement that focuses on the here and now. They were developed by Fritz Perls and Eric Berne respectively in reaction to traditional Freudian Psychoanalysis which Perls saw as too cerebral and Berne saw as expressed in too opaque language. Perls developed a powerful set of experiential tools for clients to experience what is going on rather than just talk about it and Berne developed a very clear and useable conceptual framework for clients to understand their experience. Together they make a beautiful marriage that brings together the best of both worlds. We will look at the unique contributions of each approach and how each can enhance the other to create a greater whole.

12:30～ ※約1時間/昼食持参

ランチョンセミナー① E211

TA (交流分析) ミニ講座

関 真利子 (成城大学学生相談室)

<プロフィール>成城大学学生相談室カウンセラー。国際TA協会認定交流分析家(心理療法分野)。繁田 千恵先生に師事。臨床心理士。長らく学校教育現場において生徒・学生の成長・発達支援に従事している。



ランチタイムのひとときに、TA幕の内弁当をご一緒に味わってみませんか? TAの主要な概念はそれぞれがユニークで、どれも独特の味付けがされています。1つだけでも充分おいしいし、組み合わせることでさらに味わい深くなったりもします。何より私たちの日々の生活の中で実感できるものの詰め合わせ、というのがうれしいところ。身近な出来事の中から、私たちの物の見方やとらえ方の癖などについて楽しく確認できる時間にしたいと思っています。

MEMO

12:30～ ※約1時間／昼食持参

ランチョンセミナー② E311
ゲシュタルト療法ミニ講座

相模 佳世子 (NPO 法人ゲシュタルトネットワークジャパン)

<プロフィール>NPO 法人 GNJ スタッフ。
芸術療法のセラピスト活動。交流分析を学び
ゲシュタルトセラピーに出会う。GNJトレ
ーニングコース、ファシリテーター養成コ
ース修了。ゲシュタルトセラピーで体験したこ
とを現実の場に活かして、豊かな人生を！



ゲシュタルトとはドイツ語で直訳がなく、パターン・形態・意味あるまとまりと捉えることができ
ます。セミナーは、体験を通してゲシュタルト療法を知って頂く内容になっています。今回は、ご自
分の「食」に焦点を当て、ゆっくり味わいながらゲシュタルトの「気づき」を広げて行きたいと思
います。食は人生。気づくことで選択の自由が生まれます。ご自分らしい「食」のあり方を、このラン
チョンセミナーで発見してみませんか？

お弁当ご持参で、お気軽に参加して下さい。

MEMO

第1日 7月15日(土)

14:00～19:00 映像ホール (E100)

ヴァン・ジョインズ 再決断療法ワークショップ

通訳/丸山 智恵子

MEMO

9:30~11:30 研究発表① E211 司会 江夏 亮 / E311 司会 檀野 竹美

13:30~15:30 研究発表② E211 司会 守谷 京子 / E311 司会 藤原 勝

抄 録 集

211(9:30) 「大学生へのゲシュタルト療法の適用」 室城 隆之 -----P12

211(10:35) 「世代を超えた未完了の完了に向けて～ゲシュタルト療法活用域を拡げるために～」
有滝 功 -----P14

311(9:30) 「心理的背景に着目した調剤過誤対策と効果—介入前後3週間のエラー数比較—」
堤 俊也 -----P16

311(10:35) 「産業保健におけるゲシュタルト活用の可能性について」 皆吉美和子 -----P18

211(13:30) 「ロンベルグ反射を応用した取り組みで心身の繋がりを確かめる」
金光 由展 -----P20

211(14:35) 「エンプティチェア上の自己内対話に『我—汝関係』は可能か」
岡田 法悦 -----P22

311(13:30) 「ゲシュタルト療法を活用したチームビルディングにおけるパワーハラスメントの
回避方法」 大槻 貴志 -----P23

311(14:35) 「ゲシュタルト療法による摂食障害のあるクライアントの面接過程」
河村 葉子 -----P24

大学生へのゲシュタルト療法の適用

室城 隆之（江戸川大学）

【目的】現在，わが国においても，ゲシュタルト療法は少しずつ知られるようになってきているように思われる。しかし，来談者中心療法や精神分析的心理療法から展開し，現在では認知行動療法が主流であるわが国の心理療法の状況においては，ゲシュタルト療法の知名度はなお低いと言わざるを得ない。それを端的に表すもののひとつが，大学におけるゲシュタルト療法の講義の少なさである。

そこで筆者は，3年前に大学教員の職に就いて以来，カウンセリング演習やゼミの講義の数コマを割いて，ゲシュタルト療法の講義を実践している。また，それに加えて，昨年からはゼミ合宿の際にゲシュタルト療法のワークグループを実践し，ゼミ学生にクライアント体験をしてもらっている。まだ，試みを始めた段階に過ぎず，データは少ないが，今回の発表では，そこでのゼミ学生の体験から，大学生へのゲシュタルト療法の適用の効果を検討することを目的とする。

【方法】大学の2泊3日のゼミ合宿において，11時間にわたり，ゲシュタルト療法のワークグループを実施した。筆者がファシリテーターとなり，ゼミ学生にクライアント体験をしてもらい，その前後に質問紙調査を実施した。対象は大学3年生10名（男子5名，女子5名），大学4年生4名（男子1名，女子3名）で，大学3年生10名は個人ワークのクライアントを体験し，大学4年生の4名はグループへの参加のみであった。質問紙としては，谷井（2012）が開発した「サイコドラマ効果測定尺度」を用い，ワークグループの前後に同じ質問紙に回答してもらい，その結果を対応のあるt検定により比較した。また，ワークグループ終了後には，表1のとおり，自由回答式の質問紙も実施した。

番号	質問項目
1	今回のゲシュタルト療法グループに参加する前，どのような思い，考えなどがありましたか。
2	あなたは今回のグループに，どのような形で参加しましたか。 1) ワークのクライアントになった 2) クライアントにはならず，参加者としてワークを見ていた
3	グループに参加した感想をお書きください。
4	グループに参加してあなたに起きた変化について，できるだけ多く書いてください。

表1 自由回答式質問紙

【結果・考察】

(1)サイコドラマ効果測定尺度の結果と考察

谷井（2012）の「サイコドラマ効果測定尺度」は，26項目から作成されており，それらはさらに「自己肯定感」「自己の再認識」「普遍性」「支えられ感」の4因子に分類されている。ゲシュタルト療法のワークショップ前後のデータをt検定によって比較したところ，「普遍性」において1%水準で，「自己の再認識」において10%水準で有意差が認められた。「自己肯定感」「支えられ感」については，有意差は認められなかった。項目別にみると，「普遍性」では，「自分と同じような悩みを多くの人が抱えていると思う」「他の人の経験の中に自分と共通

するものを感じることもある」に1%水準で、「人はみんな自分と同じような課題を持っていると思う」「自分の経験はみんなに理解されている」「友だちの経験を自分にあてはめて解決の糸口が見えることがある」に5%水準で有意差が見られた。また、「自己の再認識」では、「最近自分に対する気づきが増えた」「人の話を批判せずに聞けるようになった」に5%水準で有意差が見られた。さらに、「自己肯定感」においても、「自分は以前よりリラックスしていると感じる」で5%水準、「嫌な経験であっても前向きにとらえ直すことができる」で10%水準の有意差が見られ、「支えられ感」では「嫌なことがあっても人と話すことによってスッキリする」に5%水準で有意差が見られた。この結果から、大学生に対するゲシュタルト療法の効果として、自分だけでなくグループメンバーも自分と同じような悩みや課題を抱えていることに気づき、嫌なことでも人に話し、自分の経験が理解されたと感じて今までより気が軽くなり、前向きにとらえ直すことができるようになるとともに、人の話も批判せずに聞くことができるようになり、友だちの経験から自分の問題の解決の糸口を発見していることが明らかになった。一方、自己肯定感や支えられ感の項目の多くに変化が見られなかったことについては、1度のワークグループ体験では、根底にある自分や他者への認知の仕方には変化が生じなかったものと考えられ、ワークグループ体験を重ねることによってこれらに変化が見られるかどうか、今後の課題であると思われる。

(2)自由回答式質問紙の結果と考察

自由回答式質問紙の結果については、KJ法を用いて、意味内容による分類を行った。その結果、ワークグループ前には、どのようなことをするかわからないことからくる「未知の体験への不安、緊張、恐怖」や「人前で悩みを話すことへの抵抗感」、「ワークへの拒否感」といったネガティブな気持ちが強かったのに対して、ワークグループ後の感想としては、メンバーが同じような悩みを持っていることを知ったことによる「悩みの共有と共感」や「悩みを話すことによるカタルシス」といったポジティブな感想が多く、「真の自分と向き合う体験」ができてよかったという感想も見られた。さらに、自分の変化については、メンバーへの「共感に基づく前向きな気持ち」を持ったり、「不安の軽減と安心」、「自分の気持ちの気づき」「自分の受容」「解決策の発見」といった変化が見られた。

(3)総合考察

以上の結果と考察から、大学生にゲシュタルト療法を適用した場合の効果が検証された。しかし、一方で、大学生にゲシュタルト療法を適用する場合、初期不安や初期抵抗を取り除くために、事前にゲシュタルト療法についての丁寧な説明やグループ設定で自己開示することへの不安の軽減が必要であることが示唆された。また、自分や他者への認知の変化のためには、継続的なワーク体験が必要であることも示唆された。さらに、本研究ではサンプル数が少なかったため、今後も調査を継続することが必要である。研究発表当日には参加者と、大学生にゲシュタルト療法を実施する際の留意点について話し合えればと思っている。

世代を超えた未完了の完了に向けて
～ゲシュタルト療法活用域を拡げるために～

有滝 功（株式会社イサオファクトリー G N J 会員）

【はじめに】

今年の3月にG N Jでアドバンス・トレーニングコースを修了した。ここ数年、ゲシュタルト療法に魅せられて、学びを続けている。同時に家族療法の「ファミリーコンステレーション」の学びを始めたが、ワークするテーマに於いてはゲシュタルト療法との併用及び使い分けをする方がよいのではという問題意識を持ち始めている。

【問題意識と仮説】

ゲシュタルト療法ワークショップに於いては、様々なテーマでのワークが展開される。その中で、同一のクライアントがほぼ同様のテーマ領域を何回もワークすることを目にする。これは、「ファミリーコンステレーション」で言うところの「イシュー」に絡んでいるのではないだろうか。クライアントの家族フィールドの中に存在する「重荷」をクライアントが引き受けて「纏れ」として体験し続けているのではないだろうかという仮説である。

※（システミック）イシュー：クライアントが人生において、繰り返し経験し対処することに苦勞している困難なパターン。そのパターンがどこから来ているのか見当がつかない。

※重荷：家族システムにおける原則が乱されて発生した責任を誰も取らないことにより発生する感情。

※（家族システムの）纏れ：家族フィールドの中の重荷を、後の世代に生まれた子どもが引き受け、その引き受けた感情を持ち続けて生きることにより生じる捕らわれた状態。

【イシューの例】（アイアムアイ・ホリスティック・ヘルス研究所WEBより）

- ・ 生きているという実感が湧かない
- ・ 罪悪感がいつもあって、どうしてなのか理由が思い当たらない
- ・ 自分の子どもや親、兄弟とまったく行き来がない（家族内で争いが絶えない）
- ・ いつもなぜか悲しい感じがしている（死んでしまいたい）
- ・ この世に存在する権利がないような気がする

【主張】

スピリチュアルな話に聞こえるかもしれないが、「生まれてこれまでのトラウマ」にはゲシュタルト療法は最適で、「家族システムの纏れによって、この世に生まれた段階で背負ってしまった重荷」≡イシューと思われるテーマには、「ファミリーコンステレーション」のワークを試してみることが有効であると考えている。

【ファミリーコンステレーションの目的と概要】

ファミリーコンステレーションの目的は、クライアントを家族システムの縛れから出してやること。家系の誰かの意識下から出してやることである。

一般的なファミリーコンステレーションに於いては、次のような流れでワークが進んで行く。

1 インタビュー

- ① イシュー（クライアントがイシューの深い部分にコンタクトする）
- ② 情報（ファシリテーターから、家族に起きた重要な出来事を確認する）
- ③ 提案（最初に配置する代理人についてクライアントに提案する）

2. コンステレーション

- ① 配置（代理人を立てて家族を配置する）
- ② 分析（最初の光景から家族システムにおける傾向を見てとる）
- ③ 発展（縛れに光が当たるよう、現れた傾向を強調していく）
- ④ 癒し（和解や再統合、または家族内で、本来のオーダーを尊重すること、欠けていた存在を認識すること、与える／受け取る の均衡を取り戻すなどによって、縛れを解消する）
- ⑤ リ・オーダー（家族メンバーそれぞれが、システムの中の然るべき位置につくように促す）
- ⑥ 吸収（新しいオーダーのエネルギーを体験し、吸収する）
- ⑦ 終了（その場に居た全員が家族の運命に敬意を表し、手放す）

【ゲシュタルト療法とファミリーコンステレーションの親和性】

エンプティチェアに代わり、クライアントやその他の家族たちが代理人として登場する。代理人がその家族フィールドに入るや、さまざまな感情表現を伴う現象が起こる。今ここで、過去にあったかもしれない出来事が代理人たちによって表現されていく。この流れは、ゲシュタルト療法のワークで繰り広げられる地から図が浮かび全体が統合されていく様と同様に感じる。

【今後に向けて】

エンプティチェア及び百武正嗣氏の「家族の彫刻」のアプローチを参考にクライアントのテーマに応じて、ゲシュタルト療法とファミリーコンステレーションを併用したアプローチを模索していきたい。

参考文献：

- ・「家族連鎖のセラピー」百武正嗣著（春秋社）
- ・「愛の法則 親しい関係での絆と均衡」バート・ヘリンガー著（和尚エンタープライズジャパン）

心理的背景に着目した調剤過誤対策と効果 — 介入前後 3 週間のエラー数比較 —

堤 俊也 (株) ヒーリングサポート はるかぜ薬局)

【目的】

これまでの調査でエラー発生 of 要因には、1) 注意のフォーカスのずれ、2) 想像・連想と現実の誤認・錯誤、が関係していた。2011 年に、この 2 点についての講習がエラー数に与える影響を調査したところ、介入群は有意にエラー数が減少し、未介入群ではエラー数の変化はなかった。スリップエラーは有意に減少していたが、ミスメイクエラーはエラー数こそ減少していたが有意ではなかった。今回、データを追加し、ミスメイクエラー対策を強化した講習を行い、その影響を調査することとした。

【方法】

調剤薬局チェーンの協力を得て、2 地域で講演を行い、それぞれ前後 3 週間のエラー数を職員に記録してもらった。エラーは記録者により、スリップとミスメイクに分類され、エラーが起こった瞬間の気持ち・感情と共に記録された。ほぼ全社員(薬剤師及び事務員)が参加する講習会であったため、未介入群は設定しなかった。また、薬剤師については記録票からエラー発生時の感情を喜び系、不安系、焦り、怒り系、悲しさ系、苦しさ系に分類・集計し、講演前後での比較も行った。

結果の解析には t 検定を用いた。

講習の内容は次の通り

- 1) 想像・連想エラーの体験学習 いかにはトは想像の中で生きているか
- 2) 焦りの気持ちを落ち着かせる方法
- 3) 注意のフォーカスを業務に戻す方法
- 4) ストレスが強い場合のストレスマネジメント

【結果】

1) エラー数の比較

調査票回収数：347 枚 除外：9 枚 解析対象：338 枚

総エラー数 (1252→697 $p<0.005$)、ミスメイク数 (517→282 $p<0.005$)、スリップ数 (700→382 $p<0.005$) と有意に減少した。

2) 感情の比較

調査票回収数：162 枚 除外：3 枚 解析対象：159 枚

喜び系 (40→30 N.S)、不安系 (51→41 N.S)、焦り (213→102 $p<0.005$)、怒り系 (63→29 $p<0.005$)、悲しさ系 (86→36 $p<0.005$)、苦しさ系 (32→12 $p<0.05$) という結果であった。

【考察】

今回の調査ではスリップ、ミステイク共にエラーは有意に減少した。

2011年に行った調査でもスリップエラーは有意に減少しており、2時間弱の講演であっても、体験学習的要素を取り入れれば効果が認められることが再確認できた。エラーが減少しなかった調査票では、エラーが起こる瞬間の気持ちに気づくことができていない例が多かった。業務中に、注意のフォーカスがどこに当たっているのか、それに気づけるようになることがエラーを起こすか、気づいて回避するかの境界と考えられる。

またミステイクエラーについては、次の2点がエラー数減少に寄与したと考えている。ひとつは講演中にゲシュタルト療法のワーク、気づきのワークを体験してもらったことである。もうひとつは日々の生活の中でも無意識に想像したことや連想したことを現実として捕らえていることを体験的に気づくよう講演に工夫をこらしたことである。

エラーが減少しなかった調査票では、エラーが起こる瞬間の気持ちに気づくことができていない例が多かった。

感情の比較においては、焦り、怒り系、悲しさ系ではそれぞれの感情が発生した場面でのエラー数が有意に減少しており、ストレスマネジメントの効果が現れていると考えられた。

減少はしても有意差がなかった喜び系では、強いストレスが解消した瞬間に緊張が解け、エラーが起こっていた。また、適度な緊張が形成されていない場面でのエラーも確認された。これらに対しては緊張が緩む、または形成されない場面があること、その場面での適度な緊張を維持、形成する方策を伝えることが必要であろう。

同じく有意差がなかった不安系では、患者や職場の人間からの心理的圧迫が不安や恐怖を発生させ、そこに注意のフォーカスが当たっているためにエラーが起こっていた。この点については個別のカウンセリングの必要性が感じられた。

産業保健におけるゲシュタルト活用の可能性について

皆吉 美和子（ゲシュタルト・アート・フォーカシングネット）

【目的】IT企業の保健師として心身の健康支援を行う中で、個人及び組織との関わりを通し、産業保健におけるゲシュタルト活用の可能性について考える。

【背景】産業保健の目的は、働く人がやりがいをもって生き活きと健康で安心して働ける職場づくりを行い、生産性の向上に寄与することである。最近では、ストレスチェック制度、治療と就労の両立支援、過重労働対策、健康経営等の動向が注目されており、いずれもメンタルヘルスとの関連が深い。厚生労働省は「労働者の心の健康保持増進のための指針」の中で4つのメンタルヘルスカケアを実施することを推進しており、セルフケアやラインケア等の教育もその中に含まれる。また、一番のストレス要因である人間関係については、アサーションやアンガーマネジメント研修を導入する企業が増えている。会社の保健室に訪れるメンタルヘルス不調者は、身体症状の訴えから表面化するケースが多い。筆者は、働く人にとって心とからだのつながりを実感する機会が増えるとより気づきが深まり、セルフマネジメント力がつき、モチベーションやパフォーマンスの向上、更には創造性や生産性の向上につながるのではないかと考える。また、指針では、職場環境等の把握と改善についても示されており、これまで別々に行われてきた人材育成や組織開発とメンタルヘルス対策との融合に期待と関心が集まっている。

【方法】（事例1：セルフケアおよびラインケア教育における試み）

1. 社内で『ココロとカラダをつなぐワークショップ』（*1）と題して参加者を募集し、セルフケア研修（120分）を実施した。参加者は14名（20代～60代、男性11名、女性3名）。チェックイン後、既成概念に囚われない自分なりの健康について表出してもらった。次に、健康について頭ではなく体はどう感じているか、フォーカシングを取り入れて体に注意を向けてから、今の自分のボディーイメージを絵に描き、自分がどんなケアを必要としているかペアワークをした。2.（*1）を実施した翌週、ワークスタイル変革をテーマとした幹部の組織マネジメント研修（1日）で、（*1）で社員たちが描いた絵と気づきの3領域について紹介した。さらに、各職場の健康いきいき度について幹部が直感的にどう捉えているかをシートに記入してもらい、ストレスチェック結果と比較した。

（事例2：組織活性化とメンタルヘルスとの関連）

社内では、3年前から企業風土の変革と新たなビジネス価値の創出を目指す活動が行われていたが、結果に結びつかず行き詰っていた。そこで、組織変革の講師を迎え、ファシリテーターの資質を備えたリーダー養成を行うことになった。研修期間は7ヶ月、参加者はエントリー選抜された14名で筆者も参加した。この研修プロセスで起きた参加者と職場の変化について、産業保健の視点からゲシュタルト活用の可能性について検討する。

【結果と考察】（事例1：セルフケアおよびラインケア教育における試み）

1.（*1）に参加した社員たちは自覚している以上に、「周りの目を気にしてガ

チガチになっている」「両足がおもりみたいで身動きできない」「アザラシのように体が重くもがいている」「目まぐるしさに機械的に動いている」等、環境と心とからだのつながりに気づき、今の自分に必要なセルフケアにつながった。参加者からは全員に体験してほしいという要望もあった。2.の幹部研修では、(*1)で社員が描いた絵を見て、「うちの部?」「メンタル大丈夫か?」と反響があり、職場で見えている部分と隠れている部分の違いに驚く一方で、「自分も同じだ…」という声が漏れた。また、職場の健康いきいき度については、幹部たちの予想に反して、いきいき度が低く現実との間にギャップがあることがわかった。

筆者が機会がある度に、研修で「今のからだの感じ」や「気づきの3領域」を体験してもらっている。不健康は、心と体が離れて自分を見失った状態であり、気づきの3領域の往来が停滞している状態と認識しているからだ。個人レベルの体験的理解が進むと、今ここにあり続け、他者や職場を全体としてみる感覚が養われ、現実とコンタクトしながら今必要なことを選択できるようになるだろう。そういう社員や幹部が増えることが健康な職場づくりにもつながると考える。

(事例2：組織活性化とメンタルヘルスとの関連)

研修期間中、毎月ワークショップ設計と実践の宿題があり、グループミーティングと振り返りが行われた。グループミーティングは、我-汝の関係に近く、その場で起きるプロセスに関わる場となり、ゲシュタルトの場を彷彿させるものだった。途中で行われた合宿では、各自が自分の中にある嘆きや悲しみ、喜びに出会って自分自身とつながり、お互いの体験を共有し合い、グループとしてのつながりが生まれる契機となった。しかし、グループが醸成されていく途中では葛藤や対立も起きた。ミーティング中に激情したAもその一人で、講師もメンバーも、その場で対話による解決を試みたが未完に終わり、筆者が個別に引き継ぐことになった。筆者は、Aに反転と投影が起きていることに気づいていたので、ゲシュタルトワークを提案しワークしたところ、相手に母親を投影し反転していた怒りが爆発したことに気づいた。その後、Aはグループから距離を置いたが、引き続き職場の環境改善に取り組んでいる。また、参加者の中には、抑うつ状態で休みがちのB、居場所がないと感じているC、不意の異動に不安でもがいているDの3人がいた。3人は、研修プロセスの中で今の自分を受け入れることで自分を取り戻し、地と図の変換が起きて、同じ仕事をしながらも新しい世界を楽しんでいる。そして、彼らが触媒となって職場環境にも変化が生じてきていることは、逆説的な変容の一つと言えよう。周囲の支援は職場ストレスの緩衝要因となるが、当初スキル習得を目的としていた参加者たちが、自分とのつながりや他者との関係性を重視したワークショップ設計を試みたことは興味深い。以上より、組織活性化とそのプロセスもメンタルヘルスに効果的である。最近では、産業保健でもファシリテーターの需要が高まっているが、ゲシュタルトの視点が活かされるとより豊かな場が生まれると思われる。筆者にとって、ゲシュタルト以外のファシリテーター研修は初めてだったが、今回ファシリテーターの要諦と語られた「常に今ここに有り続け、意図を持ち続けながら、全体を感じ続けること」はゲシュタルトと共通しており、本質は普遍的だと思った。

ロンベルグ反射を応用した取り組みで心身の繋がりを確かめる

金光 由展 (自然性回復セラピー)

【目的】ロンベルグ反射(体のふらつき)をワークすることで心身の繋がりを検証する。

【方法】体の揺れという姿勢の不安定を、心身に繋がりをもった未統合の象徴としてワークを行い、姿勢と本人の自覚の変容を照合する。

作業手順(1)

立位閉目して、体の揺れ、ふらつきの傾向性を確認する。ロンベルグ試験において陰性の対象者に対して約1分間体の揺れに任せてもらい、繰り返しでてくる動きのパターンを見出す。

● ロンベルグ試験おける陰性とは～

試験の要領(インターネット Wikipedia より引用)

被験者に足をそろえ、目を閉じて直立するように言う。実施者は被験者の近くに立ち、被験者が倒れて怪我をしないように注意する。被験者の動きを周囲の垂直な物(部屋の柱やドア、窓など)と比較して観察する。体の揺れがあれば、陽性と記載する(時として不規則に揺れたり、転倒したりすることもあるので注意する)。基本的な特徴は、被験者が開眼しているときよりも不安定になるということである。

ロンベルグ徴候が<陽性>であるとは、次の2点をどちらも満たすことを言います

1. 被験者は開眼していれば立てる。
2. 被験者が閉眼すると倒れる。

・次の場合は陽性とはいえません

・被験者が開眼していても倒れてしまう。

これは<陰性>であり、小脳に異常がある可能性があります。

・あるいは、閉眼した際にふらつくが倒れない。

作業手順(2)

全体の臨床では立位閉目で体の揺れを確認し、重心のかかり方を観察検出し体の調整設計に役立てる。この作業では揺れのパターンを感じ取ったら、しばらくそれを繰り返す。次にその揺れの雰囲気であるとか特徴、勢いをつかんで意識的にそのエネルギーに同化する。その際、ワークの基本原則である思考領域の介入をできるだけ避け、そこにある今ここでの印象を大切にする。また、一般的にワークでは表出したエネルギーに対して、対立要素や過去の記憶に関わる気分など様々な要素が浮上するが、この作業では「動きそのものを吟味すること」に集中し、他のエネルギーを扱わないこととする。やり方としてはゲシュタルト療法・投影のエクササイズに近い。

● 整体臨床で体の揺れと脊椎の連動が意味すること

全体の臨床上、頭部の前後の動き、体の左右移動、伸縮(前屈後屈)動作、回旋運動、骨盤の開閉運動には、それぞれその動きの支点となる脊椎との連関性、法則性が認められている。つまり、ある脊椎周辺の筋肉に緊張や脱力があると、それに応じた法則的なふらつきが生じることになる。したがって、心理的な作業を行ってふらつきが減少、姿勢

の安定が得られるならば、動きの種類に該当する脊椎周辺の状況(姿勢)が肯定的に変化し、姿勢が良くなったと推測することが可能となる。

被験者 A (Hiromi さん, 主婦, 40 代)

《体の揺れ》 右カカトにかかった重心が前の方に移動したり戻ったりする。

《気づきと変容》 「どりゃあー！」とばかりに感情ぶつけてしまう自分があることに気づいた。でもそれをこそこそして人に見せないようにしていたことを再認識した。この作業と気づきはピタリと重心を安定させるだけでなく、左右の足の感覚が入れ替わるほどの実感をもたらした。

被験者 B(Kimiko さん, OL, 40 代)

《体の揺れ》 初めは、なんとなく左右に揺れ次に左斜め前方に揺れ始め、その揺れを繰り返してたら、左足が待ってました！…とばかりに(歌舞伎の見得を切るイメージ)前にドンツと出た。

《気づきと変容》 仕事においても家庭においても、私の空間、居場所がないと感じてはいた。それが「なんとなく～」から「そう！そう！」って感じに変化。重心もピタッと安定するだけでなく全身にはつらつ感がでてきた。

この被験者はこの後、続けてこの気づきについてワークを行った結果、仕事場、家庭において他人優先ではなく、自分の居場所を作るための意思決定をした。その後、仕事場、家庭で自己犠牲に陥りないコツを掴み始めているとの報告を受けた。

【結果・考察】 体の揺れから気づきを得る事は心身同時に安定した状態を取り戻すことができる。

以上の試みにより体のふらつきとを介して心身が密接な繋がりがあると体験的な結果を出すことができた。

病や症状があるとそれに応じた歪みがあると整体では見ている。だから体のふらつきの元となる歪みを整えて経過を待つ。また、病気症状に伴う体の無意識的な動きには本質的な慾求が隠れているという見方も持っている。

ロンベルグ反射を応用したこの作業では、本人の実感からしたら違和感のある体の揺れについてワークを行い、気づきを得ることができた。結果、姿勢が安定的に整うだけでなく心理的な成長変容を確認することができた。

今回は背骨を観察しておいて、ワークの後にそれを再確認するという作業は行っていない。これは手の感覚には個人差があるので普遍化することが難しいためと、ワークの流れの中でそれを行うのはムードが途切れてしまう可能性があるのが理由。

今回の報告以外に同類の作業や臨床があり、どの場合においても姿勢は必ず安定している。それは物的なものではなく生の人間の生きる勢いを伴ったものと、報告者金光は感じている。

心身の繋がり方と少しテーマは逸れるが、ふらつきという本人にとって不都合な要素についてワークを行うと自然に反応してくる体の感覚や動き。そのことから肯定的な価値を導き出せる。このことは、問題症状自体に自然治癒力との関連性があるか、問題から気づきを得ようとするに対して体が持っている本質的な恒常性が働く、その可能性を感じている。この点について今後も研究を続けたいと思う。以上

岡田 法悦 (ゲシュタルト・インスティテュート)

【目的】 欧米のゲシュタルトセラピーでは関係対話療法が主流になっている。一方、日本では現在でもエンプティチェアを用いたワークが多く行われている。この相違の文化的背景を明らかにすると共に、エンプティチェアワークにおける「我－汝関係」の可能性を二つの視点から検討する。

【方法】 欧米のゲシュタルトセラピーで関係対話療法が発展したのは、エンプティチェアを用いることが現代ゲシュタルトセラピーの基礎理論の一つ、M.ブーバーの「我－汝関係」の実現を妨げる「テクニック」であると考えられたことによる。

一方、日本のゲシュタルトファシリテーターが今でもエンプティチェアを用いてワークをするのは、それが欧米とは異なる日本の文化におけるクライアントとファシリテーターの関係のあり方に適合しているからであると考えられる。

そこで、次の2点を検討することで、エンプティチェアを用いたワークにでも「我－汝関係」を実現することが可能であることを明らかにしたい。

1. 個人主義的な欧米の文化におけるクライアント－ファシリテーター関係と、関係主義的ともいえる日本文化の中のクライアント－ファシリテーター関係の違い
2. エンプティチェアを用いたワークで、
 - ① エンプティチェア上の自己内対話で「我－汝 “的” 関係*」が可能であること
 - ② エンプティチェアを用いたワークにおけるクライアント－ファシリテーター間の「我－汝関係」が可能であること

*ここで「我－汝 “的” 関係」としたのは、M.ブーバーの「我－汝関係」の概念が、自分と他者との関係について考えられたものであり、一人の心の中の二つの声の対話については想定していないことによる。

ゲシュタルト療法を活用したチームビルディングにおける パワーハラスメントの回避方法

大槻 貴志（企画経営アカデミー）

【プロフィール】

交流分析歴 22 年，再決断療法歴 10 年，ゲシュタルト療法歴 5 年。IT ベンチャーを創業し，黒字状態の時に引き起こした組織崩壊から，組織開発に興味を持つようになる。現在は起業支援，事業創造支援，組織開発コンサルなどにゲシュタルト療法を活用し，年間 300 人近いビジネスリーダーと面談している。

【目的】

病理での治療方法として活用されているゲシュタルト療法を，ビジネスリーダーのリーダーシップ開発に適用できるか検証すること

【対象】

社員がいる経営者，部下を持っている中間管理職

【背景】

組織作りにおいて，チームリーダー自身が気づかないうちに，メンバーに対してパワーハラスメントをしてしまい，リーダーが頑張れば頑張るほど，チームの成果が上がらないケースに遭遇した。特に中間管理職のケースでは，優秀な人ほどパワハラを起こしやすく，周囲が本人にどのように伝えたらいいか迷っている状況が発生している。

【方法】

ゲシュタルト療法を使い，リーダーとメンバーそれぞれの立場において視点が違うワークを実施し，思い込みによるマネージメントを減らすようにした。

【結果】

ワークを最後までやり切ったビジネスリーダーには気づきが起き，メンバーとの価値観の違いについて受け入れることができた。一方で，中間領域で抵抗を示すビジネスリーダーも多く，その場合には交流分析を使うなど，思考的アプローチも必要とした。

【考察】

ビジネスリーダーが，過度に結果を出そうと思えば思うほど，部下と上司との間に線引きすることができず，境界線をうまく引くことができないことが分かった。また，良くビジネスを勉強するビジネスリーダーほど，交流分析でいう「汚染」が発生し，他者の言葉でしか物事を語れなくなってしまい，自分の考えで相手に接することができなくなってしまいうことも分かった。本人が本来持っている中間領域を発揮するためには，自分の言葉で自分の考えを語れるようにならないといけないことが分かった。

河村 葉子 (ハートフリースペース)

【目的】 ゲシュタルト療法 (GT) は人間が本来環境に応じて創造的に健康を維持する能力ある有機体であり、一つの全体的な、統合された存在であるとする。その目指すところはクライアント (CI) が「今-ここ」の体験から自己を統合する過程を援助することによって、それが CI 自身の日常生活へと般化されることである。この原則に基づいた方針による摂食障害のあるクライアントの面接過程を検討し、ゲシュタルト療法の効果について検討する。

【方法】 CI は、神経性無食欲症 (AN) と診断され 10 代で 2 回入院治療をしており、症状を繰り返してきた病歴のある 20 代前半の女性。母親に伴われて来室した時は、過度に痩せており歩くのもやっとの状態であった。聞き取りの結果、初回面接現在の症状はむちゃ食い／排出型であった。身体機能の低下が危惧され身体医学的課題の必要が生じる可能性を考慮しつつ、GT の基本概念である「今-ここ」での関わりと、CI 自身が「今-ここ」を体験することを支援することによる人間性の発展、統合を目指し、AN については「問題」として扱わないことを方針とした。初期の面接は 2 週間に 1 回、中期以降基本的に CI の判断に任せた。

【考察・結果】 初回面接では母親がこれまでの経緯と現状を話している間、CI は一言も話さずうつむいていた。質問に対してかすかにうなづく、首を横に振るという意思表示は見られたため、筆者 (Co) は次回一人で来て一緒に過ごしてみたら面接を続けるかどうか相談することを提案した。CI は以後 6 年にわたり面接に通い、過食をしなくなってから 1 年の経過を確認して終了した。

《初期 #1～#12》当初は自発的発話がなかった為、Co の誘導による呼吸並びに内部領域の気づきの促進やリラクゼーションを取り入れながら進めた。少しずつ CI は消え入るような声で「いろいろなことが気になる」「(自分の言動を) 相手がどう思っているのか気になる」「何回も反芻する」「気になって何も手につかなくなることが苦しい」と語り始め、#4 より出来事の一部を語るようになった。Co は信頼関係が形成されつつあると判断し、#5 より気持ちを尋ねる介入と身体感覚に意識を向ける介入を加えていった。CI の話し方、答え方は常に時間を要し、口を開きかけては閉じる動作が繰り返し観察され、「いろいろなことが気になっている」ことが推察された。#6 で Co に話した後に「落ち着いた」「少しスッキリした」等の言葉が聞かれたため、#7 で CI に Co が気づいたことをフィードバックする等「今-ここ」の体験をより促進する関わりを積極的に始めた。CI は母親との関係が苦しいと語った。#8 で Co のエンプティチェアの提案に CI がうつむいた時、今の気持ちを尋ね、どうするかを選択できること、Co に合わせる必要がないことをフィードバックすると、CI はわっと泣き始めた。しばらく泣き続けた後に顔を上げて「すごく安心した」「何だかずっと人に合わせているかもしれない」と語った。#9 では CI の感情を遊びながら動作や仕草を含んで表現する実験に応じ、「何だか楽しい」「重かった気持ちが軽くなり澄んだ感

じがする」と語った。#10はCIの口調がこれまでになくはっきり明確になり、体調が良いと語った。また自分の気持ちや考えがわからなくなる時に体の感覚を感じると安心すると語った。#12でCIはここまでの過程を振り返り「不思議なことがたくさん起きたが、色々な自分がいて、それが一つになった感じがする」「言葉と心が以前は離れていたが今はつながっている」「体の声を聴けば間違いないと思う」「食べ物の味がわかるようになり食べることが楽しくなった」「まだまだ不安だが、それはこれから経験して覚えていけばいいと思う」と語った。Coとの関係が信頼と安心できる場を創り、CIの気づきが促進し、統合されたと考えられる。CIはこれで大丈夫と言ったが、Coはここからが重要と考えたためもう1回面接をしてから決めることを提案した。

《中期#13～104》CIは3食食べるようになったものの、時々満腹かどうかはわからなくなると言い、それが母親と一緒に食事をする時であること、母親と食事や長い会話をした日の夜中に無性に食べたくなる衝動があることに自覚が生まれた。中期では主に母親との関係、父親との関係を扱うことが多かったが、同時にCIの反転による葛藤がより明確になり、見捨てられるのではないかとという恐れが浮上した。Coは常にCIの気づきを受け止めつつ、今どうしたいのかに焦点を当てながら関わり、CIの主体性を支持することに努めた。この過程にCIは意欲が生まれてアルバイトを始め、他者との関わりにも似た葛藤が起きることを体験し、好きな人ができるという経験もしながら、実際にCIを見捨てた人はいないという事実気づき、徐々に母親に「私は違う」と言うことを試したり、母親との境界線の持ち方を模索するようになっていった。CIは今ここで何が起きているのか、どうしたいのかをCoに問われることで自分の欲求に気づき、表現し、選択する経験を重ね、Coに信頼されることで自己肯定感が促進し、問題に悩みながら生きることを肯定的に捉えられるようになったと考えられる。

《終期#105～#111》#105でCIは母親や家族が好きで大事である気持ちと母親が窮屈である気持ちを持ちながらも「ラクに過ごせるようになり、やりたいことも楽しめるようになった」と語った。#109で「母は変わらないんです…私もう大人ですよ、だから離れる方がいいのかな。たまに話す分には私も聞けるから」と考えるようになり、「気づいたら半年近く過食をしていない」と語った。#111で「悩みながら、やっていけばいいと思うようになった。今答えが出ないことも、いろいろ経験することでわかってくるのかなと思う。すごく楽しみな感じがある」と語った。CoもCIも一致して終了する時期であると感じられた。念のため半年後にフォロー面接をして終了とした。

Coは中期面接過程でCIの自発性が高まるのを実感し、母親の反応が強まることを想像していた。これがCIの生きている現実である。個々の独自性を重視するGTの原則「今-ここ」に十分関わることをCoと共に経験した結果、CIは欲求や気持ちに気づき、その都度選択する自在さを学び、思考、気持ち、行動が統合され、現実（環境）に応答しながら生きる創造性が発展した。

最後に長期にわたる取り組みを続けかつ事例公表を快く承諾してくれたCIに心からの感謝と敬意を表します。

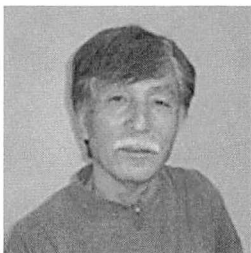
15:45～17:45 映像ホール (E100)

シンポジウム

「ゲシュタルト療法とTA（交流分析）～違いから生まれる可能性～」

■司会進行：室城 隆之

■シンポジスト：



ゲシュタルト療法 百武 正嗣

＜プロフィール＞NPO 法人 GNJ(ゲシュタルトネットワークジャパン)理事長。日本ゲシュタルト療法学会前理事長。パールズの弟子であるポーラ・バトム博士からゲシュタルト療法を学び、日本におけるゲシュタルト療法の普及に努めている。日本フェルデンクライス協会理事。

ゲシュタルト療法の本質は「再決断療法」や「TA ゲシュタルト」と比較することで明確になるとも言える。臨床現場で患者が「より簡潔に理解できる」様に再構築された再決断療法は、ゲシュタルト療法の何をまとめたのか。人生の脚本を実際に書き換えるために用いられた「TA ゲシュタルト」は、ゲシュタルト療法のどの側面を活用したのか。また、ゲシュタルト療法は何を原則としているのか。どのような哲学を持っているのかについて、比較と議論を通してみていく。



TA（交流分析） 門本 泉

＜プロフィール＞東京少年鑑別所法務技官。早稲田大学大学院在学中より、故深澤道子氏に師事。法務省入省後、非行・犯罪の臨床現場でTA (Transactional Analysis) を実践し、国際TA協会の規定によるトレーニングを開始。2001年 Certified Transactional Analyst (心理療法) 取得、2013年 Teaching and Supervising Transactional Analyst (心理療法) 取得。日本TA協会理事を15年以上務めるほか、2014年より国際TA協会副会長。

臨床の現場における鋭い観察から発展してきたTA (Transactional Analysis) は、ゲシュタルト療法と共通点も多いのですが、勿論違いも多くあります。TAのカギとなる概念をご紹介しますながら、TAの理論と技法、そして哲学が、日本社会や世界各国でどのように使われ得るのか、ゲシュタルト療法とどのように接点を持てるのかについて、考えたいと思います。当日は、理論的な説明よりも、具体的な実践例に重点を置いてお話をする予定です。



再決断療法 繁田 千恵

<プロフィール> T A 心理研究所 所長。国際 T A 協会 教授 会員 (心理療法 分野)。再決断療法士。日本交流分析学会 名誉 理事。文学 博士。臨床 心理 士。ヴァン・ジョインズ から 再決断療法、人格 適応 論を 学び、日本 での 再決断療法 家 の 養成 に 力 を 入 れ て い る。

再決断療法は、皆様ご承知のように交流分析の理論とゲシュタルトの技法を、ちょっと今風のおしゃれな言い方でいえば“マリアージュ”

した療法です。交流分析の心理療法は、多くの図式化された理論モデルを使い、個人の心を分析していく作業が中心です。そこに“問題の外在化”、“関係の視覚化”のためにチェアワークを中心としたゲシュタルト療法の技法を取り入れることで、個人の中に、今ここのガットレベルでの変容が起こる、そのプロセスに私はとても魅了されています。この大会を機会に、再決断療法をより身近において頂けることを願っています。

MEMO

9:30~12:00 (2F)E202,203,211,213,222,223 /((3F)E302,303,311,321

大会ワークショップ①

1. 人生脚本：「わたし」と「からだ」の物語

渋谷 祥代

交流分析では、私たちは幼少期の時、親や周りの環境から自分の人生をどう生き、自分がどうあるのかを、無意識的に決断してゆくとされています。そして、ゲシュタルト療法では、人生を「今ここ」から何度でも、自分の意思で選択出来る可能性を示唆しています。本ワークショップでは、自分の中にある「物語」を意識し、身体の声に耳を傾ける時間を、皆さんとご一緒できたらと考えています。

2. プレイバックシアターとゲシュタルト

白坂 和美

プレイバックシアターとは、台本のない即興劇です。あなたから語られた言葉達が物語になり、再現されていきます。子どもの頃の『おままごと』『怪獣ごっこ』の様に自然と仲間と息をあわせ、繰り広げられていきます。日常の何気ない出来事や、大切な思い出が世界に一つしかない物語となり、モノトーンの世界から彩りのある世界へと移り変わっていきます。誰もがアクター、語り手です。子どもの様に遊び心を持ち寄りご一緒しましょう。

3. 実験：〇〇になる

倉木 成伊知

ゲシュタルトでよく使われる「何かになりきって演技（職場のいやな上司になる）（胸に感じるもやもやになる）など、何かになりきって感じることを表現してみると、不思議と気づきが生まれてくるものです。そこで、みんなで一斉に〇〇になり、感じるままに言葉を発し他の参加者と関わるといふ実験をしてみましょう！笑いあり涙あり気づきありの時間になることでしょうか！ところで、〇〇って何？ それは、参加してからの楽しみです。

4. いのちの声を聴く

梅田 福一郎

このワークショップでは、人と人の出会いの素晴らしさを体感したいと考えています。我々の日常会話は、役割としての関係（親と子、先生と生徒、上司と部下）等、我々：その関係を生きています。このワークショップでは、日常を離れて、我＝汝の関係を体感したと思っています。プーバーは言っています。「我＝汝は、ただ、存在の全体でもってのみ語られる」と。存在の全体とはそれぞれの人の「いのち」と私は考えています。

5. 心とからだの深呼吸

三井 洋子

入ってくる情報の量が増えスピードが増し複雑になって、それに適応できるように頭を使っています。人との関係も複雑になっているかもしれません。ただ、人も動物としてのシンプルな機序があります。生きていくために呼吸をするということ。無意識でも調整している呼吸のシステム。意識と無意識をつなぐシステム。ゆっくりたっぷり心にもからだにも酸素を届けてみましょう。

6. からだは私のミカタ～心と体のつながりを取り戻すはじめての一步～

皆吉 美和子

からだは、いつも生きるために動いています。そして、なんだか変なときも良い感じのときにも大切なメッセージを送ってくれます。からだは私の見方♪それに気づくか気づかないかは自分次第。今のからだの感じに繊細に注意を向けながらボディーイメージを描いて、そこに息吹を吹き込んでみませんか？

7. フォーカシング指向ゲシュタルト療法を体験しよう

有村 凛

ゲシュタルト療法にフォーカシングを加えることで、からだの知恵をかりて、からだの繊細な声に気づきやすくなります。ゲシュタルトワークを体験する時に、感じられない、感じにくいという経験のある方、是非体験してください。また、クライアントを目の前にする時に、どのように自分自身が存在しているのか、ファシリテーターの内側で何が起きているのか、気づきやすくなります。一緒に体験しましょう。

8. Field を Feel ど！？

芦原 義浩

家族、職場、友達、ワークショップ、…人が集まるとそこには「場(field)」ができます。そして、ゲシュタルトセラピーでは、今ここの「場」からの気付きがとても大切だと感じます。見えない、音もない、触る事もできず、味も匂いもない「場」から、見て聞いて触って味わって匂うことを通じて気づきを得るために、大切だと感じた色々を紹介したいと思います。

9. 自己発見、気づきは人生をおもしろくする

野妻 裕美

人の存在は一人一人見るもの感じるもの全て、自分で選んだ世界を生きています。そんな自分に気づき、選択し反応することに責任を持つ事で、より自由に豊かに生きていけます。そして人は環境(家族、社会、他者)から影響を受けて生きています。ファミリーコンステレーションの思想を取り入れたエクササイズにより、人とのコンタクトによる身体感覚に気づく、という事をリアルに体験していきましょう。

10. TA・ゲシュタルト(再決断療法)ワークショップ

室城 隆之

このワークショップでは、大会初日のヴァン・ジョインズ博士のワークショップに続く形で、再決断療法のワークを行ないます。再決断療法の理論的説明はくり返さず、ワーク中心に進めたいと思っていますが、ワークの振り返りの中で質問にもお答えします。もっと再決断療法を知りたい方、実際に体験したい方の参加をお待ちしています。

12:30～ ※約 1 時間 / 昼食持参

ランチョンセミナー 映像ホール(E 100)

論文の書き方

山本 隆一郎 (江戸川大学社会学部人間心理学科准教授)

<プロフィール> 早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了博士(人間科学)
日本大学医学部公衆衛生学分野専修研究員, 上越教育大学大学院学校教育研究科臨床・健康教育学系助教, 同講師, 同准教授を経て 2016 年 4 月より現職



論文は、研究の成果をまとめたものであり、そのまとめ方には一定の形式やルールがあります。本ランチョンセミナーでは、これからご自身の研究成果を論文にまとめてみようという方に向けて、論文の形式、執筆の際の留意点、投稿と公表についての要点を簡単に説明します。また、最近の論文執筆ならびに公表に関する重要なトピック（研究倫理や利益相反開示、コンセンサスレポーティングガイドライン）についても紹介します。

MEMO

13:30~16:00 (2F)E202,203,211,213,222,223/(3F)E302,303,311,321

大会ワークショップ②

1. 理論と体験 ～気づき・関わり・プロセス～

河村 葉子

気づき、関係性、創造性を柱に理論を交えながら、今-ここを参加者のみなさんと一緒に探求したいと思います。心理療法という枠を超えて、有機体である人間がいきいきとすこやかに個性豊かに外界に応答していることに目を向け、ひとつひとつに丁寧に関わりながら、自分と繋がり、体験するプロセスに、信頼ややさしさを育みましょう。

2. 絵を描いて自分に出会うワークショップ

渡辺 トヨ子

提供された作品(絵)を受容したり拒否したりする体験(GNJの前田茂則さんにご指導をいただいたものです)。絵の上手い下手は問いません。4つ切りの画用紙に、今、この瞬間の自分を感じながら手の赴くままに描きます。絵の主人公は自分自身です。5人1グループになり、3グループで行います。一斉に描き始め、合図とともに絵を隣の人に渡します。渡された絵にそれぞれが絵を追加します。さて、なが旅をして帰って来た自分の絵は？

3. スーパービジョン

江夏 亮

このワークショップでは次の事を行います。1. 感情の強さをアセスメントする簡単なツールの紹介。ワーク中にクライアントさんが感じる感情に対してこのツールを使うと、未完了の問題へより容易にたどり着け終了する事が可能となります。2. ライブ・スーパービジョンか、ケースの報告を聞いて検討する伝統的なスーパービジョン。参加者の希望により、どちらかを選択します。必要に応じて、バイジーの「今、ここで」の探索もします。

4. ゲシュタルト療法の理論と実践

守谷 京子

理論背景がどのようにワークに活かされているかを、体験と解説を通して展開してゆきます。参加者の要望でワークをし、その場で解説してゆきます。

また、スーパーバイズをしてほしい例があれば、質疑応答しながら、ワークを再現し、解説、スーパーバイズをしてゆきます。ぜひ、ケースを持ってきてください。

参加者と共に「理論と実践」に裏打ちされた時間、空間を「今、ここで」作り上げていくのを楽しみにしています。

5. ライブ・スーパービジョン&セラピー

～ファシリテーターの課題を見出し、その場でワークする～

岡田 法悦

ファシリテーターがワークの流れを見失ったり行き詰まったりした瞬間にスーパーバイザーがワークを止め、ファシリテーターをクライアントにしてワークに入る、『スーパービジョン&セラピー』。ファシリテーターの「今・ここ」にスーパーバイザーが関わり、弱点をワークする、ゲシュタルト的スーパービジョンです。(元々のクライアントは、ワークを中断されるので、中途半端になる可能性があります。その点、ご了承ください。)

6. 家族システムと身体

百武 正嗣

家族の関係について問題がある場合には、二つの視点が必要である。一つは親子関係を世代間の縦の流れのシステムとしてとらえてみる。親と私(子供)の葛藤は「家族」という時間と空間を共有している組織としてどのような意味を持つものなのか。二つ目は「家族の葛藤」はその集団に属している個人に不安、怒り、悲しみ、などの感情や情動を湧き起こすが、身体にどのような形として現れるのか。家族のシステムと家族の身体関係に焦点を合わせる。

7. ゲシュタルトにTAを活用するワークショップ

藤原 勝

ゲシュタルト療法の個人ワークをする際の着目点を増やしませんか？ヴァン・ジョインズ博士の研究所で学んだ方法をご紹介します。自分の人生脚本(幼児期に無意識に決断した生き方)を明らかにし、それを元にワーク。ワーク中にはTA理論の中のドライバー(自分を駆り立てるもの)や値引き、などの視点で観察することによりクライアントはより深い気づきを得ることができ、またファシリテーターは洞察力を上げるのに役立ちます。

8. TA脚本の書き換えにG e s t a l t療法を

平松 みどり

交流分析は『人生の総責任者は自分である』『過去と他人は変えることが出来ない。変わることが出来るのは、今、ここでの自分だけである』の哲学を基盤にして、理論による気づきを促し、自律性の獲得を目標にしています。TAの「知的面」の気づきと「今、ここ」での自分に気づき自発的実践を重視している Gestalt Work は欠くことが出来ない関係にあると言えます。TA学派の一つ「再決断派」がそれです。

9. 重い精神病理を抱えるクライアントと関わるために知っておきたいこと

中尾 文彦

今回は境界性パーソナリティ障害を中心に、重い精神病理を抱えるクライアントを支援する際に役に立つ知識や、関わる際に必要な配慮などについて講義します(解離性障害や複雑性PTSDなどについても適宜触れる予定です)。もし時間が余れば逆転移についての短いエクササイズも行う予定です。基本的に参加者の疑問・質問に答えながら講義形式を進めていきます。



江戸川大学スクールバス特別ダイヤ

7/15(土) 流山おおたかの森駅発					時	7/15(土) 江戸川大学発					
	10		25		45	8	35				
	05		15		25	9	05		25		50
00			20		40	10	10		30		50
00					50	11					40
	10				40	12	00		30		50
00					40	13					
			20		40	14	10		30		50
00			20			15	10		30		
	10				30	16	00		20		40
					50	17			20		40
						18			20		
						19	10	20	30	40	50
						20					

7/16(日) 流山おおたかの森駅発					時	7/16(日) 江戸川大学発					
	10				40	8	30				
00			20		40	9					
					30	10					
						11					45
00			20			12					
						13					
						14					
						15					
						16					
						17					
						18	00		20		
						19					
						20	10		30		50

7/17(月) 流山おおたかの森駅発					時	7/17(月) 江戸川大学発					
	10		25		45	8	35				
00			15		35	9			25		50
00			20		40	10	10		30		50
00					50	11					40
	10				40	12	00		30		50
00						13					
			20		40	14	10		30		50
00			20			15	10		30		
	10				30	16	00		20		40
					50	17	00		20		40
						18			20		
						19					
						20					

日本ゲシュタルト療法学会 第8回大会

学術大会&ワークショップ大会

テーマ 出会いから生まれるもの～ゲシュタルト療法と交流分析

大会長 室城 隆之 (江戸川大学社会学部人間心理学科)

ゲシュタルト療法と交流分析は、同時代に精神分析から分離して生まれた心理療法であり、多くの共通点を持っています。しかし、一方では、両者には相違点もあり、それがお互いの特徴を示しています。

ゲシュタルト療法が交流分析と出会ったとき、そこから何が生まれるのでしょうか？

本大会では、ゲシュタルト療法と交流分析と統合させた「再決断療法」の第一人者であるヴァン・ジョインズを基調講演者にお迎えし、ゲシュタルト療法が交流分析と出会うことによって何が生まれるのかを体験することによって、ゲシュタルト療法の今後の発展性を検討してみたいと思います。

【日程】 2017年7月15日(土)～7月17日(月祝)

【会場】 江戸川大学 (千葉県流山市駒木 474)

《予定招聘講師》

ヴァン・ジョインズ博士 Vann Joines, Ph.D.

米国ノースカロライナ州チャペルヒルにあるサウスイースト研究所(グループ、家族療法)所長。臨床心理学者でI T A A(国際TA協会)認定教授会員。1994年エリック・バーン賞受賞。

米国カップル・家族療法学会認定の臨床会員、米国グループ療法学会会員のスーパーバイザー。

著書:「TA TODAY」共著 実務教育出版

「交流分析による人格適応論」共著 誠信書房

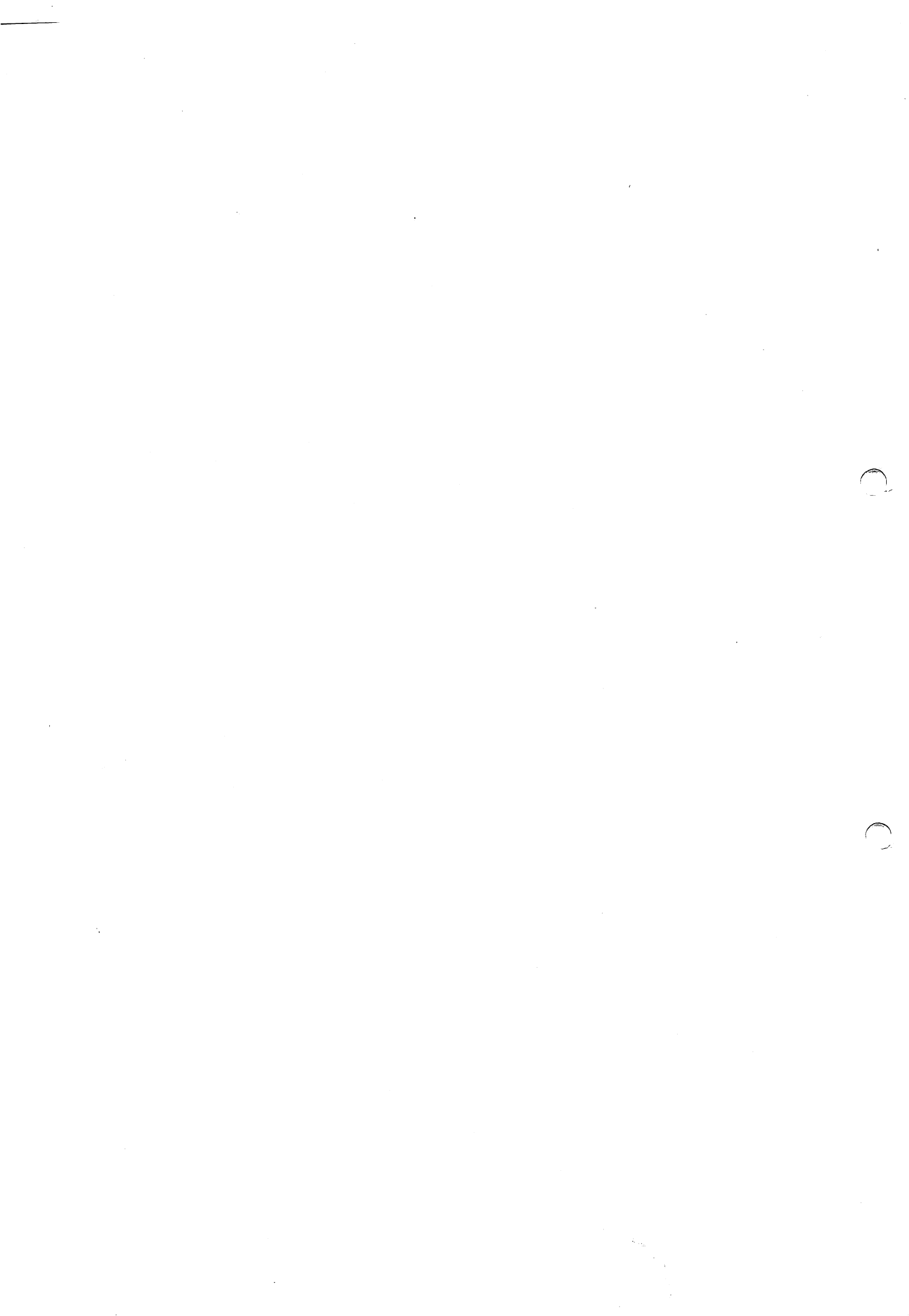
【会場までの交通案内】

- 右の経路をご参照下さい。
- 当日は開始時間に合わせてスクールバスを運行予定。
- 大学近隣には宿泊施設がないため、柏駅及びつくばエクスプレス発着駅近隣のホテル予約をお勧めします。

【大会詳細について】

- 2017年1月以降に第1報をお届けする予定です。

秋葉原	つくばエクスプレス 10分	北千住	つくばエクスプレス 15分(快速)	流山おおたかの森	無料 スクール バス 6分	江戸川大学		
つくば	つくばエクスプレス 11分(快速)	守谷	つくばエクスプレス 8分(快速)					
南浦和	JR武蔵野線 24分	南流山	つくばエクスプレス 5分(快速)					
西船橋	JR武蔵野線 17分	春日部	東武アーバンパークライン 36分					
大宮	東武アーバンパークライン 22分	柏	東武アーバンパークライン 6分					
船橋	東武アーバンパークライン 30分		東武アーバンパークライン 3分					
上野	JR常磐線 29分(特別快速で23分)		東武バス西口2番のりば 9分				豊四季	徒歩 12分
土浦	JR常磐線 41分(特別快速で32分)						梅林	徒歩 5分



JAGT

日本ゲシュタルト療法学会第8回大会 (第1報)

学術大会&ワークショップ大会

プログラム

大会テーマ

「出会いから生まれるもの～ゲシュタルト療法と交流分析」

開 催 : 2017年7月15日(土)～17日(月)

会 場 : 江戸川大学 (千葉県流山市)

大会長 : 室城 隆之 (江戸川大学社会学部人間心理学科)

第8回大会に寄せて

日本ゲシュタルト療法学会第8回大会

(学術大会&ワークショップ大会)

大会長 室城 隆之

現代の心理療法は、百花繚乱の状況です。しかし、どんな心理療法にも大きな魅力があるのと同時に、限界も存在します。心理療法の進歩のためには、その特徴を大切にしつつ、常に外から必要な情報を取り入れ、変化をしていくことが大切です。

ゲシュタルト療法と交流分析は、同時代に精神分析から分離して生まれた心理療法であり、多くの共通点を持っています。しかし、一方で、両者には相違点もあり、それがお互いの特徴を示しています。ゲシュタルト療法が交流分析と出会ったとき、そこから何が生まれるのでしょうか？ゲシュタルト療法は、その出会いから何を学べるのでしょうか？

本大会では、ゲシュタルト療法と交流分析と統合させた「再決断療法」の第一人者であるヴァン・ジョインズを基調講演者にお迎えし、併せて「再決断療法」のワークショップも開催します。また、シンポジウム、ワークショップ等を通じて、ゲシュタルト療法と交流分析の両方を体験できるようにしています。我々自身がゲシュタルト療法、交流分析の双方と出会うことによって何が生まれるのかを体験しながら、ともにゲシュタルト療法の今後の発展性を検討していければと思います。

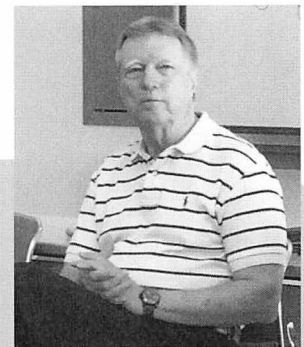
前回大会と同様、本大会も実りあるものとなりますよう、皆さま方のご参加をお願いいたします。

ヴァン・ジョインズ博士から日本ゲシュタルト療法学会会員へのメッセージ

こんにちは！

私は2017年7月15日の日本ゲシュタルト療法学会第8回大会で皆様とご一緒できることを、そして「ゲシュタルト療法と交流分析の出会い：新たな統合を創り出すためにお互いが提供し合えるもの」というタイトルで基調講演を行うことができることを楽しみにしています。私はまた、ゲシュタルト療法と交流分析を統合した再決断療法に関するワークショップを、午後に行う予定です。多くの皆さんと直接お会いし、アイデアを交換し合いたいと願っています。

敬意をこめて



ヴァン・ジョインズ博士

国際交流分析協会教授会員

米国ノースカロライナ州チャペルヒル サウスイースト研究所(集団、家族療法)所長

Greetings!

I am looking forward to being with you at your Conference on July 15, 2017 and delivering a Keynote address entitled "Gestalt Meets Transactional Analysis: What Each Can Offer the Other." I will also be presenting a workshop in the afternoon on Redecision Therapy which integrates Gestalt Therapy with Transactional Analysis. I hope to meet many of you in person and exchange ideas with you.

Warm regards,

Vann Joines, Ph.D., Teaching and Supervising Transactional Analyst

President of the Southeast Institute for Group and Family Therapy, Chapel Hill, NC

【大会プログラム】

7月15日(土) 第一日

9:00 受付

10:00 開会式

10:15 大会長講演 室城 隆之 (江戸川大学社会学部人間心理学科)
「私とTA (交流分析), そしてゲシュタルト療法」

11:00 基調講演 ヴァン・ジョインズ (通訳 丸山智恵子)

(国際交流分析協会教授会員, 米国ノースカロライナ州チャペルヒル サウスイ
ースト研究所 (集団, 家族療法) 所長)

「ゲシュタルト療法と交流分析の出会い:

新たな統合を創り出すためにお互いが提供し合えるもの」

Summary of the Keynote

Both Gestalt Therapy and Transactional Analysis are part of the reality therapy movement that focuses on the here and now. They were developed by Fritz Perls and Eric Berne respectively in reaction to traditional Freudian Psychoanalysis which Perls saw as too cerebral and Berne saw as expressed in too opaque language. Perls developed a powerful set of experiential tools for clients to experience what is going on rather than just talk about it and Berne developed a very clear and useable conceptual framework for clients to understand their experience. Together they make a beautiful marriage that brings together the best of both worlds. We will look at the unique contributions of each approach and how each can enhance the other to create a greater whole.

基調講演の要旨

ゲシュタルト療法と交流分析は共に、「今、ここ」に焦点を当てた現実療法の動向の一部です。それらはそれぞれ、フリッツ・パールズとエリック・バーンによって、伝統的なフロイト派の精神分析に対する反動として発展しました。パールズは伝統的なフロイト派の精神分析を知的すぎると感じましたし、バーンはそれをあまりに分かりにくい用語で表されていると感じたのでした。パールズは、クライアントが経験したことについて語るよりもむしろ今起きていることを体験するための強力な手法を発展させましたし、バーンはクライアントが自分の経験を理解するための非常に明確で有用な概念的枠組みを発展させました。そして、両者が一緒に美しい結婚をしたことで、両方の世界で最も良いものをお互いにもたらしました。我々はそれぞれのアプローチのユニークな貢献や、それぞれがどのようにしてより大きな全体を創り出すためにお互いを強化し合うことができるかを見るでしょう。

12：30 昼食・休憩

～ランチョンセミナー～ 食事をしながら気軽にご参加いただけます。

①TA（交流分析）ミニ講座

②ゲシュタルト療法ミニ講座

14：00 ヴァン・ジョインズ「再決断療法」ワークショップ（通訳 丸山智恵子）

19：00 終了

7月16日（日） 第二日

9：00 受付

9：30 研究発表①

11：30 昼食・休憩

11：45 JAGT 総会 （JAGT 会員は昼食ご持参のうえ、ご出席ください）

12：30 JAGT 会員と理事会の茶話会

（自由参加です。この機会にご意見、ご要望、ご質問等をお聞かせください。）

13：15 終了

13：30 研究発表②

15：30 シンポジウム

「ゲシュタルト療法とTA（交流分析）～違いから生まれる可能性」

*シンポジストは決まり次第ホームページで発表します。

17：45 終了

18：00 懇親会

20：00 懇親会終了

7月17日（月） 第三日

9：00 受付開始

9：30 大会ワークショップ 1. *詳細は決まり次第ホームページで発表します。

12：00 昼食・休憩

～ランチョンセミナー～ 食事をしながら気軽にご参加いただけます。

*詳細は決まり次第ホームページで発表します。

- 13:30 大会ワークショップ 2. *詳細は決まり次第ホームページで発表します。
16:00 終了
16:15 閉会式
17:00 大会終了

<研究発表募集要項>

1. 演題登録期間 2017年2月1日(水)受付開始～
2017年3月30日(木)24時 受付終了

2. 発表抄録原稿 締め切り:2017年5月31日(水)

3. 発表演題・抄録原稿の送り先

大会事務局宛てEメールか大会長宛郵便でお申し込みください。

郵便の場合、データを同封してください。

E-mail: yoko-k@heartfreespace.com 大会事務局長 河村葉子

郵便: 〒270-0196 千葉県流山市駒木 474

日本ゲシュタルト療法学会第8回大会長

江戸川大学 社会学部 室城 隆之 宛

4. 発表者について

発表者は、演題締め切りまでに本学会会員であることが必要です。会員でない方は日本ゲシュタルト学会事務局(JAGT)までお問い合わせいただき学会入会の手続きをおとりください。

5. 発表方法

一人当たり発表時間は60分とします(発表40～45分、質疑応答15～20分)。

発表時に資料を配布される場合は、50～80部程度をご用意ください。口頭発表に際してはPowerPoint等の機器の利用が可能です。

6. 発表抄録の作成要領

発表抄録原稿は下記の作成要領を参考にして、原稿をメール(添付ファイル)で第8回大会事務局長(河村葉子)またはか郵便(データを同封)で大会長(江戸川大学 社会学部 室城隆之)までお送りください。様式は、A4版ワープロ用紙(白紙)に横書きとします。字体は明朝体とし、指定された字の大きさで作成してください(題目、発表者、所属は中央揃え、本文はヨコ40字×タテ40行)。枚数は2ページ以内です。

↑↓ (*上余白: 2cm あける)

福祉現場におけるエンプティチェアの実践の試み

(*タイトルの文字は 12 ポイント。1 行あける)

〇〇川 〇美 (〇〇〇〇クリニック)

(名前の大きさは 12 ポイント・所属: の大きさは 10.5 ポイント。1 行あける)

【目的】 福祉現場におけるエンプティチェア・テクニックを実践……

【方法】 〇〇クリニックの同意が得られたクライアントを対象に、エンプティチェア・テクニックを実施……

(*左右余白 2cm)

← 2cm 2cm →

2cm 2cm

…… (*本文の文字の大きさは 12 ポイントとする)

【結果・考察】 エンプティチェアを実施したA群は、対照群と比べ……

2cm

.....

本研究の結果から、.....

(*下余白: 2cm あける)

↑↓

＜参加申込み要項＞

7. 参加形態 ※学術大会部門のみの参加が可能です。

- A) 総合コース 3日間
- B) 学術コース 7/15 午前中のみと 7/16 (全日)
- C) 学術コース及び初日ワークショップ参加 (7/15, 7/16 2日間)

※学術コース参加者で1日のみ参加する場合も上記B)C)いずれかの参加形態でお申込みいただき、該当の参加費を申し受けます。

8. 昼食について

大学の近隣にはコンビニ・レストラン等がありません。各自あらかじめご用意いただくか、駅周辺まで出ていただく(徒歩約20分)ことになります。ご希望者には弁当の手配をいたしますので、参加申込み時に併せてご希望日を明記のうえお申込み下さい。弁当種類はお選びいただけません。あらかじめご了承のうえお申込み下さい。

9. 参加申込み方法 申込み受付開始：3月1日より

申込みフォーム(3/1にホームページにUPします)または電話にて下記内容をお申込みのうえ、該当の参加費をお振込みください。参加費の振込みをもって参加確定とさせていただきます。学生・院生の方は、申込み時に申告していただき、当日学生証をご提示ください。尚、参加費入金の確認連絡は原則として行いません。確認の必要な方は、振込みを済まされた後に別途下記の大会事務局までメール連絡をお願いします。また、領収書はお手元の振込み記録で代えさせていただきます。領収書の必要な方は別途お申し出ください。

※電話申込みの際にお伝え頂くこと

- JAGT 会員の方：①会員番号②氏名③参加形態④懇親会の出欠⑤昼食弁当申込みの有無（申込み方はすべての希望日）
- 一般の方：①氏名②住所③電話番号④E-mail アドレス⑤参加形態⑥懇親会の出欠⑦昼食弁当申込みの有無（申込み方はすべての希望日）

<連絡先> 第8回大会事務局 E-mail jagt.8thtaikai@gmail.com
電話 045-752-1759 (JAGT 事務局)

◎参加費（5月末日までの申込み、参加費振込みを事前登録とします）

★事前登録					
参加区分	内 容	会 員	会 員 学生・院生	非会員 (一般)	非会員 学生・院生
A	総合コース（3日間）	20,000円	15,000円	30,000円	25,000円
B	学術コース（1日半） 7/15 基調講演&7/16 全日	4,000円	2,000円	5,000円	3,000円
C	学術コース及び7/15PM 招聘 講師ワークショップ	15,000円	10,000円	25,000円	20,000円
☆6月以降申込み～当日参加					
A	総合コース（3日間）	25,000円	20,000円	35,000円	30,000円
B	学術コース（1日半） 7/15 基調講演&7/16 全日	5,000円	3,000円	6,000円	4,000円
C	学術コース及び7/15PM 招聘 講師ワークショップ	20,000円	15,000円	30,000円	25,000円

懇親会参加費及び昼食弁当代金	
7/16 懇親会（一律）5,000円	各日昼食弁当 決まり次第ホームページに掲出

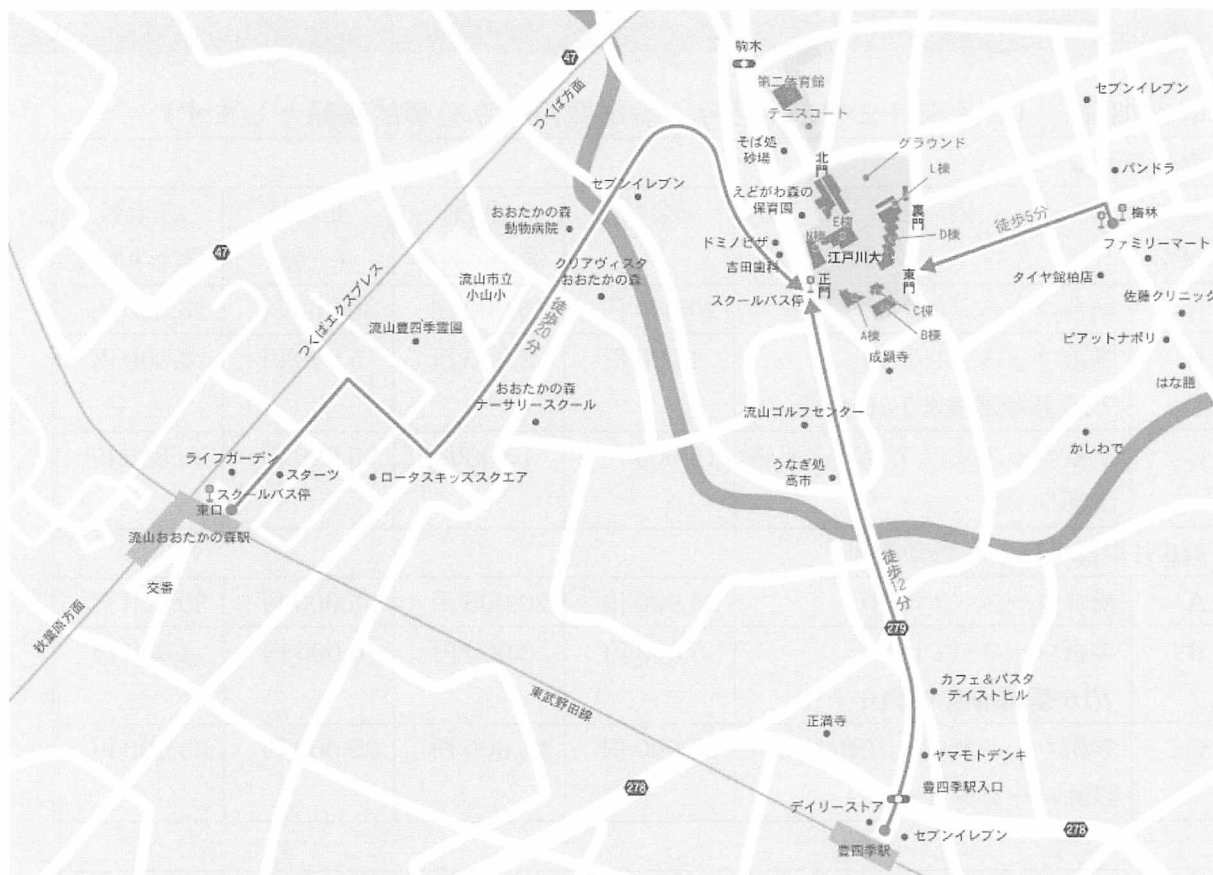
<振込先> 第8回大会専用口座
三菱東京UFJ銀行 横浜支店 普通預金 4090535
口座名義 カワムラヨウコ

《会場周辺及び交通案内》

- 次の経路及び周辺地図をご参照下さい。
- 当日は「流山おおたかの森」駅より開始時間に合わせてスクールバスを運行予定です。
- 大学近隣には宿泊施設がないため、柏駅及びつくばエクスプレス発着駅近隣のホテル予約をお勧めします。

秋葉原	つくばエクスプレス 10分	北千住	つくばエクスプレス 15分(快速)	流山おおたかの森	無料 スクール バス 6分	江戸川大学		
つくば	つくばエクスプレス 11分(快速)	守谷	つくばエクスプレス 8分(快速)					
南浦和	JR武蔵野線 24分	南流山	つくばエクスプレス 5分(快速)					
西船橋	JR武蔵野線 17分		春日部				東武アーバンパークライン 36分	
大宮	東武アーバンパークライン 22分	柏	東武アーバンパークライン 6分				豊四季	徒歩 12分
船橋	東武アーバンパークライン 30分		東武アーバンパークライン 3分				梅林	徒歩 5分
上野	JR常磐線 29分(特別快速で23分)		東武バス西口2番のりば 9分					
土浦	JR常磐線 41分(特別快速で32分)							

江戸川大学周辺地図



《キャンセルについて》

参加申込み後のキャンセルについては次のように対応します。

- 参加費：開催初日の前日より参加費の100%を申し受けます。
- 懇親会費：開催初日の3日前より懇親会費の100%を申し受けます。
- 弁当代金：キャンセル条件は業者決定後にホームページに掲出いたします。
- 上記以外は振込手数料を差し引いた金額を返金しますが、大会終了後になる場合があります。

JAGT

日本ゲシュタルト療法学会第8回大会 (第2報)

学術大会&ワークショップ大会

プログラム

大会テーマ

「出会いから生まれるもの～ゲシュタルト療法と交流分析」

開催：2017年7月15日(土)～17日(月)

会場：江戸川大学(千葉県流山市)

大会長：室城 隆之(江戸川大学社会学部人間心理学科)

後援／日本交流分析学会・NPO 法人日本交流分析協会・(一社)日本産業カウンセラー協会
NPO 法人日本 TA 協会・TA 研究部会

第8回大会に寄せて

日本ゲシュタルト療法学会第8回大会
(学術大会&ワークショップ大会)
大会長 室城 隆之

現代の心理療法は、百花繚乱の状況です。しかし、どんな心理療法にも大きな魅力があるのと同じ時に、限界も存在します。心理療法の進歩のためには、その特徴を大切にしつつ、常に外から必要な情報を取り入れ、変化をしていくことが大切です。

ゲシュタルト療法と交流分析は、同時代に精神分析から分離して生まれた心理療法であり、多くの共通点を持っています。しかし、一方で、両者には相違点もあり、それがお互いの特徴を示しています。ゲシュタルト療法が交流分析と出会ったとき、そこから何が生まれるのでしょうか？ゲシュタルト療法は、その出会いから何を学べるのでしょうか？

本大会では、ゲシュタルト療法と交流分析と統合させた「再決断療法」の第一人者であるヴァン・ジョインズを基調講演者にお迎えし、併せて「再決断療法」のワークショップも開催します。また、シンポジウム、ワークショップ等を通じて、ゲシュタルト療法と交流分析の両方を体験できるようにしています。我々自身がゲシュタルト療法、交流分析の双方と出会うことによって何が生まれるのかを体験しながら、ともにゲシュタルト療法の今後の発展性を検討していければと思います。

前回大会と同様、本大会も実りあるものとなりますよう、皆さま方のご参加をお願いいたします。

ヴァン・ジョインズ博士から JAGT 会員へのメッセージ

こんにちは！

私は 2017 年 7 月 15 日の日本ゲシュタルト療法学会第 8 回大会で皆さんとご一緒できることを、そして「ゲシュタルト療法と交流分析の出会い：新たな統合を創り出すためにお互いが提供し合えるもの」というタイトルで基調講演を行うことができることを楽しみにしています。私はまた、ゲシュタルト療法と交流分析を統合した再決断療法に関するワークショップを、午後に行う予定です。多くの皆さんと直接お会いし、アイデアを交換し合いたいと願っています。敬意をこめて



ヴァン・ジョインズ博士
国際交流分析協会教授会員
米国ノースカロライナ州チャペルヒル サウスイースト研究所（集団、家族療法）所長

Greetings!

I am looking forward to being with you at your Conference on July 15, 2017 and delivering a Keynote address entitled “Gestalt Meets Transactional Analysis: What Each Can Offer the Other.” I will also be presenting a workshop in the afternoon on Redecision Therapy which integrates Gestalt Therapy with Transactional Analysis I hope to meet many of you in person and exchange ideas with you.

Warm regards,

Vann Joines, Ph.D., Teaching and Supervising Transactional Analyst
President of the Southeast Institute for Group and Family Therapy, Chapel Hill, NC

【大会プログラム】

7月15日(土) 第一日		(会場)
9:00	受付開始	E棟入口
10:00	開会式	映像ホール
10:15	大会長講演 室城 隆之 (江戸川大学社会学部人間心理学科) 「私とTA (交流分析), そしてゲシュタルト療法」	映像ホール
11:00	<p>基調講演 ヴァン・ジョインズ (通訳 丸山智恵子) (国際交流分析協会教授会員, 米国ノースカロライナ州チャペルヒル サウスイースト研究所 (集団, 家族療法) 所長)</p> <p>「ゲシュタルト療法と交流分析の出会い: 新たな統合を創り出すためにお互いが提供し合えるもの」</p> <p>Summary of the Keynote</p> <p>Both Gestalt Therapy and Transactional Analysis are part of the reality therapy movement that focuses on the here and now. They were developed by Fritz Perls and Eric Berne respectively in reaction to traditional Freudian Psychoanalysis which Perls saw and too cerebral and Berne saw as expressed in too opaque language. Perls developed a powerful set of experiential too for clients to experience what is going on rather than just talk about it and Berne developed a very clear and useable conceptual framework for clients to understand their experience. Together they make a beautiful marriage that brings together the best of both worlds. We will look at the unique contributions of each approach and how each can enhance the other to create a greater whole.</p> <p><u>基調講演の要旨</u></p> <p>ゲシュタルト療法と交流分析は共に、「今、ここ」に焦点を当てた現実療法の動向の一部です。それらはそれぞれ、フリッツ・パールズとエリック・バーンによって、伝統的なフロイト派の精神分析に対する反動として発展しました。パールズは伝統的なフロイト派の精神分析を知的すぎると感じましたし、バーンはそれをあまりに分かりにくい用語で表されていると感じたのでした。パールズは、クライアントが経験したことについて語るよりもむしろ今起きていることを体験するための強力な手法を発展させましたし、バーンはクライアントが自分の経験を理解するための非常に明確で有用な概念的枠組みを発展させました。そして、両者が一緒に美しい結婚をしたことで、両方の世界で最も良いものをお互いにもたらしめました。我々はそれぞれのアプローチのユニークな貢献や、それぞれがどのようにしてより大きな全体を創り出すためにお互いを強化し合うことができるかを見るでしょう。</p>	映像ホール
12:30	昼休み *ランチョンセミナーは1時間・自由参加 (弁当持参でご参加ください)	
	ランチョンセミナー① TA (交流分析) ミニ講座 講師: 関真利子 (成城大学学生相談室カウンセラー)	E211
	ランチョンセミナー② ゲシュタルト療法ミニ講座 講師: 相模佳世子(ゲシュタルトネットワークジャパン)	E311
	JAGT 評議員会 (予定)	E202
14:00	ヴァン・ジョインズ「再決断療法ワークショップ」 (通訳 丸山智恵子)	映像ホール
19:00	終了	

7月16日(日) 第二日		(会場)
9:00	受付開始	E棟入口
9:30	研究発表① (①②の振り分け及び順番は変更になる場合があります。) 1. 「大学生へのゲシュタルト療法の適用」 室城 隆之 (江戸川大学社会学部) 2. 「世代を超えた未完了の完了に向けて ～ゲシュタルト療法活用域を 広げるために～ (仮題)」 有滝 功 (株式会社イサオファクトリー)	E211
	1. 「心理的背景に着目した調剤過誤対策と効果 ー介入前後 3 週間のエ ラー数比較ー」 堤 俊也 (株式会社ヒーリング・サポート はるかぜ薬局) 2. 「産業保健の現場におけるゲシュタルトの可能性 (仮題)」 皆吉 美和子 (GAFnet)	E311
11:30	昼食・休憩	
11:45	JAGT 総会 JAGT 会員は昼食ご持参のうえ、ご出席ください。	映像ホール
12:30	JAGT 会員と理事会の茶話会 自由参加です。テーマは設けません。会員みな さんの意見、要望、質問等をいただきながらコミュニケーションを図りましょう。	映像ホール
13:15	休憩	
13:30	研究発表② (①②の振り分け及び順番は変更になる場合があります。) 3. 「ロンベルグ反射を応用した取り組みで心身の繋がりを確かめる」 金光 由展 (自然性回復セラピー)	E211
	4. 「エンプティチェア上の自己内対話に『我ー汝関係』は可能か」 岡田 法悦 (ゲシュタルト・インスティテュート株式会社)	
	3. 「ゲシュタルト療法を活用したチームビルディングにおけるパワーハ ラスメントの回避方法」 大槻 貴志 (経営企画アカデミー株式会社) 4. 「ゲシュタルト療法による摂食障害に対する面接過程 (仮題)」 河村 葉子 (ハートフリースペース)	E311
15:30	休憩	
15:45	シンポジウム 「ゲシュタルト療法とTA(交流分析)～違いから生まれる可能性」 ゲシュタルト療法 百武 正嗣 (ゲシュタルトネットワークジャパン理事長) TA (交流分析) 門本 泉 (国際交流分析協会副会長) 再決断療法 繁田 千恵 (国際交流分析協会教授会員)	映像ホール
17:45	終了	
18:00	懇親会	L棟食堂
20:00	終了	
7月17日(月) 第三日		(会場)
9:00	受付開始	E棟入口
9:30	大会ワークショップ① 下段参照	当日発表
12:00	昼食・休憩 *ランチョンセミナーは1時間・自由参加 (弁当持参でご参加ください)	
	ランチョンセミナー「論文の書き方」 講師：山本隆一郎 (江戸川大学准教授)	映像ホール
13:30	大会ワークショップ② 下段参照	当日発表

16:00	休憩	
16:15	閉会式	映像ホール
17:00	大会終了	

大会ワークショップ① (9:30~12:00)		※会場は当日受付周辺に掲示します		
区分	ワークショップ	担当	定員	参加条件
1	人生脚本:「わたし」と「からだ」の物語	渋谷 祥代	12名	なし
2	プレイバックシアターとゲシュタルト	白坂 和美	なし	なし
3	実験:〇〇になる	倉木成伊知	なし	なし
4	いのちの声を聴く	梅田福一郎	12名	なし
5	心とからだの深呼吸	三井 洋子	なし	学会員のみ
6	からだは私のミカタ ～心と体のつながりを取り戻すはじめての一步～	皆吉美和子	12名	なし
7	フォーカシング指向ゲシュタルト療法を体験しよう	有村 凜	なし	なし
8	フィールド フィールド FieldをFeelど!?	芦原 義浩	15名	なし
9	自己発見、気づきは人生をおもしろくする	野妻 裕美	12名	なし
10	★大会テーマワークショップ TA・ゲシュタルト(再決断療法)ワークショップ	室城 隆之	15名	なし
大会ワークショップ② (13:30~16:00)		※会場は当日受付周辺に掲示します		
区分	ワークショップ	担当	定員	参加条件
1	理論と体験 ～気づき・関わり・プロセス～	河村 葉子	なし	なし
2	絵を描いて自分に出会うワークショップ	渡辺トヨ子	15名	学会員のみ
3	スーパービジョン	江夏 亮	12名	なし
4	ゲシュタルト療法の理論と実践	守谷 京子	12名	なし
5	ライブ・スーパービジョン&セラピー ～ファシリテーターの課題を見出し、その場でワークする～	岡田 法悦	なし	なし
6	家族システムと身体	百武 正嗣	なし	なし
7	ゲシュタルトにTAを活用するワークショップ	藤原 勝	なし	なし
8	TA脚本の書き換えに Gestalt 療法を	平松みどり	なし	なし
9	重い精神病理を抱えるクライアントと関わるために 知っておきたいこと	中尾 文彦	12名	学会員のみ

■第三日の大会ワークショップ①②はすべて参加申込みが必要です。

参加申込みは、会場にて7月16日(日)13:30までにしてください。定員のあるワークショップの申込みが定員を超えた場合は抽選し、同日15:00頃までに結果を発表します。定員に満たない場合は二次募集となります。定員のないワークショップも申込みが必要です。必ずお申込み下さい。(手順は次ページをご参照ください)

【大会ワークショップ①②参加申込み・抽選手順】

初日より受付周辺に「大会ワークショップ参加申し込み用紙」を設置します。

参加したいワークショップに氏名（フルネーム）を記入してください。

◆ 申込み締切：7月16日（日）13：30

定員のあるワークショップに定員以上の申込みがあった場合は、大会事務局で抽選します。

抽選結果は、当選者氏名に○で表示し、同じ場所に掲示します。各自でご確認ください。

◆ 抽選結果発表：7月16日（日）15：00頃

残念ながら抽選にもれた方（氏名に○のない方）は、空きのあるワークショップの参加申込み用紙に氏名（フルネーム）を記入してからご参加ください。

抽選結果発表後は、定員のあるワークショップは定員を超えての申込みはできません。抽選後は定員まで先着順とさせていただきます。

<参加申込み要領>

7. 参加形態 ※学術大会部門のみの参加が可能です。

A) 総合コース 3日間

B) 学術コース 7/15 午前中のみと 7/16（全日）

C) 学術コース及び初日ワークショップ参加（7/15, 7/16 2日間）

※学術コース参加者で1日のみ参加する場合も上記B)C)いずれかの参加形態でお申込みいただき、該当の参加費を申し受けます。

8. 昼食について

会場の江戸川大学近隣にはコンビニ、飲食店がありません。大学内に飲料の自動販売機がございます。飲食店のある「流山おおたかの森」駅までは、徒歩20分程度かかります。昼食はあらかじめご用意いただくか、事前に下記の弁当申込みをしていただけますよう、ご案内申し上げます。尚、弁当は事前注文のみで、当日はお受けできませんので、あらかじめご了承ください。

【弁当申込み方法】

各日1食 1,080円

参加申込みと同時に申込み下さい。代金は参加費と合算してお振込みください。

※ キャンセル・変更は大会初日前日17：00までにお願いします。当日はお受けできませんのでお気を付けてください。

※ 大会初日前日17：00以降のキャンセルはお申込み分全額を申し受けます。

【弁当内容】

★7月15日（土）



笹巻きずし、鳥しそチーズ、厚焼き玉子、野菜煮物、ひじき、唐揚、ホタテほか

★7月16日（日）



焼き魚、玉子焼き、いか南蛮漬け、天ぷら、野菜煮物 ほか

★7月17日（月）



そばろご飯、牛すき焼き、オムレツ、野菜煮物、唐揚 ほか

9. 参加申込み方法

JAGT ホームページの「参加申込みフォーム」または電話にて下記内容をお申込みのうえ、該当の参加費・申込金を合算してお振込みください。参加費の振込みをもって参加確定とさせていただきます。学生・院生の方は、申込み時に申告していただき、当日学生証をご提示ください。尚、参加費入金の確認連絡は原則として行いません。確認の必要な方は、振込みを済まされた後に別途下記の大会事務局までメール連絡をお願いします。また、領収書はお手元の振込み記録で代えさせていただきます。領収書の必要な方は別途お申し出ください。

※電話申込みの際にお伝え頂くこと

- JAGT 会員の方:①会員番号 ②氏名 ③参加形態 ④懇親会の出欠 ⑤昼食弁当申込みの有無(申込み方はすべての希望日)
- 一般の方:①氏名 ②住所 ③電話番号 ④E-mail アドレス ⑤参加形態 ⑥懇親会の出欠 ⑦昼食弁当申込みの有無(申込み方はすべての希望日)

<連絡先> 第8回大会事務局 E-mail jagt.8thtaikai@gmail.com
電話 045-752-1759(JAGT 事務局:平日 9:00~18:00/土曜 17:00 まで/日祝休)

◎参加費 (5月末日までの申込み、参加費振込みを事前登録とします)

★事前登録					
参加区分	内容	会員	会員 学生・院生	非会員 (一般)	非会員 学生・院生
A	総合コース (3日間)	20,000 円	15,000 円	30,000 円	25,000 円
B	学術コース (1日半) 7/15 基調講演&7/16 全日	4,000 円	2,000 円	5,000 円	3,000 円
C	学術コース及び 7/15PM 招聘講師ワークショップ	15,000 円	10,000 円	25,000 円	20,000 円
☆6月以降申込み~当日参加					
A	総合コース (3日間)	25,000 円	20,000 円	35,000 円	30,000 円
B	学術コース (1日半) 7/15 基調講演&7/16 全日	5,000 円	3,000 円	6,000 円	4,000 円
C	学術コース及び 7/15PM 招聘講師ワークショップ	20,000 円	15,000 円	30,000 円	25,000 円

懇親会参加費及び昼食弁当代金	
7/16 懇親会 (一律) 5,000 円	各日昼食弁当 (一食) 1,080 円

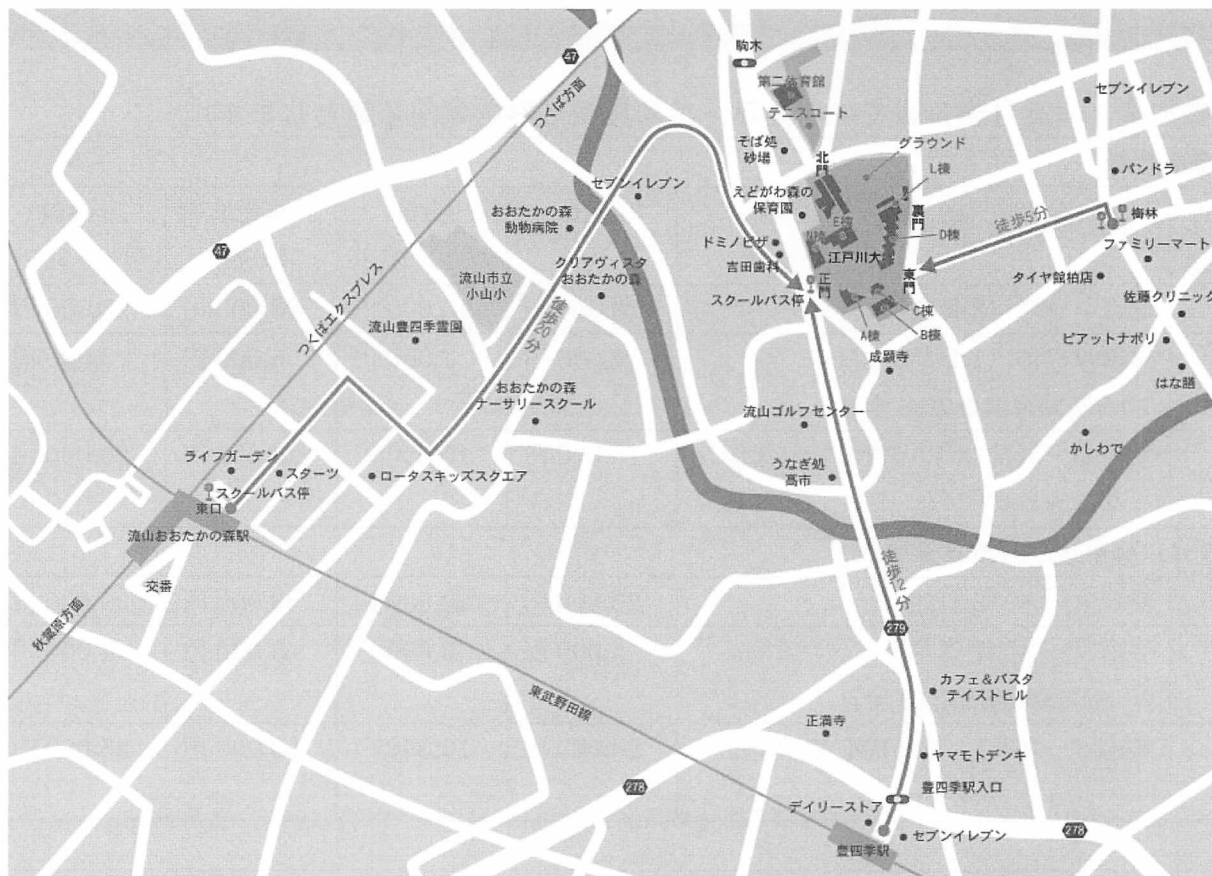
<振込先> 第8回大会専用口座 ※年会費はお受けしておりません。
三菱東京UFJ銀行 横浜支店 普通預金 4090535
口座名義 カワムラヨウコ

《会場周辺及び交通案内》

- 次の経路及び周辺地図をご参照下さい。
- 当日は「流山おおたかの森」駅より開始時間に合わせてスクールバスを運行予定です。
- 大学近隣には宿泊施設がないため、柏駅及びつくばエクスプレス発着駅近隣のホテル予約をお勧めします。

秋葉原	つくばエクスプレス 10分	北千住	つくばエクスプレス 15分(快速)	流山おおたかの森	無料 スクール バス 6分	江戸川大学	
つくば	つくばエクスプレス 11分(快速)	守谷	つくばエクスプレス 8分(快速)				
南浦和	JR武蔵野線 24分	南流山	つくばエクスプレス 5分(快速)				
西船橋	JR武蔵野線 17分	春日部	東武アーバンパークライン 36分				
大宮	東武アーバンパークライン 22分	柏	東武アーバンパークライン 6分				
船橋	東武アーバンパークライン 30分		東武アーバンパークライン 3分				
上野	JR常磐線 29分(特別快速で23分)		東武バス西口2番のりば 9分		豊四季		徒歩 12分
土浦	JR常磐線 41分(特別快速で32分)				梅林		徒歩 5分

江戸川大学周辺地図



《キャンセルについて》

参加申込み後のキャンセルについては次のように対応します。

- 参加費：開催初日の前日より参加費の100%を申し受けます。
- 懇親会費：開催初日の3日前より懇親会費の100%を申し受けます。
- 弁当代金：開催初日の前日17:00より全てのお申込み分の100%を申し受けます。
- 上記以外は振込手数料を差し引いた金額を返金しますが、大会終了後になる場合があります。